1972年12月10日発行 主 鑫 同 盟 (RG)100円 発行人 野村



リン主義打倒、 反スタ マル 革命的マル 復権の旗を更 国際非合法党を建設せ

民 主 主義 に る の 7 度 義 原 則 的態 7 主義者は、ブルショア民主々義とプロレタリア民主々義

否定した著者は、「プロレタリアートの独裁」を「プロ て、マルクス主義をだいなしにしてしまっている。 レタリアートの執権」という用籍に変更することによっ

を知るために、まずわれわれは、民主主義に対するレー この落者の目的であり、彼がどのようにそれを行ったか マルクス主義をブルショア思想へと改造することが、 この筆者の意図はどこにあるのか。

級の独裁である。この簡単な、マルクス主義のイロハを はブルショア階級の独裁であり、後者はプロレタリア階 は、ブルジョア民主主義と、民主主義のより高度の型で あるプロレタリア民主主義が存在するのみであり、前者 穀をもたらさない民主主義な ど は 存在せず、歴史的に 民主主義とは国家形態のことであり、そして階級の独

(2)

民主主義と社会主義 の根本的相違につい

ニンの見解を整理することからはじめよう。この著者の一いた時期における、民主主義に対する、レーニンの健康 | タリアートと機民の革命的・民主主義的独戏をめざして 一九〇五年革命前後の、ツァー専制に対する、プロレ |底な要求しかかかげす、しばしば、封建勢力との同盟を |

のである。 用して、わが党が民主々義をふみにじり、一党独裁の恐 怖政治をめざしているかのように鶭伝」(同P|九八)┃て、レーニン主義を学んだつもりになっているが、とれ まで執権ということばが独裁と訳されてきたことをも利 までの訳語が妥当でない」(『前術』P一九八)という きであって、「小数者の専横を意味する独裁というとれ が、「ディクタツーラ」は「執権」や「執政」と訳すべ アートの「ディクタツーラ」 という用 語 の 釈語である そして、との訳語の変更は、自民党や民社党が「これ それによれば、プロレタリアートの独裁はプロレタリ

"ウツキーが陥ったあやまりと全く同じ誤りに陥っている じ、敷いようのない理論的混乱に陥っている。かってカ ることが知れるであろう。この短い引用句のなかでも、 著者は民主々義と独裁とを対立させ、民主々義一般を論 しているだけでなく、その内容上の変更をも意図してい とへの批判のためにも必要だというのである。 との間に万里の長城をきず」(同P一九九)いていると に釈繕を「独裁」から「執権」へと変更することを提案 この「まえがき」の部分をみただけでも、密者が、単 一展をあとづけることが必要である。

けて考察することが必要である。 最後にプロレタリア独裁の時期の、三つの時代区分にわ て、ツァー専制と闘った時期、次に帝属主義戦争の時期 レタリアートと、農民の革命的民主主義的独裁をかかげ その際、われわれは、ます、一九〇五年前後の、プロ

をおし進めなければならない。 革命戦争の旗を守り、急進民主々義運動の長所を育て、短所を克服し、革命戦争を担う国際非合法党建設 表現であり、われわれの任務は、この民主々義をめぐる混乱、ブルショアイデオロギーへの屈服と闘争し、 ブルショアイデオロギーへの屈服が進んでいる。このことは、かっての急進民主々義運動の分解の思想的 して、「八・二五歩行委員会」に結集している豁党派の政治路線もそうであるが、民主主義をめぐる混乱 旧來の急適民主々義運動の分解と混乱と動や一にして、民主々義派の本家たる日本共産党は「プロレタ われわれが、すでに指摘してきた、烽火一派のブルジョア民主主義への開服をみてもわかるように、そ

リデートの独裁」という用語を「プロレタリアートの熱権」という言葉に変更しようとしておりプロレタ

びプロレタリアートの執権と民主々義」と題する論文を にのっとって、「前衛」十一月号に「民主連合執権およ よってなされており、わが日共も、とうした関際的風潮 党輪」(『世界政治資料』一九七一年十月下旬号)らに 作業を開始している。この理論的試みは、国際的には、 タリアートの独裁」をその綱領から除外すべく、理論的 支部への名称変更と、大衆政党 への 転換にひきつづい モンテイ・ジュレストン「社会主義・民主々義・複数政 て、プロレタリア革命の根本問題の一つである「プロレ 日本共産党は、第1回大会における組織改組、細胞の

(1)

どのような観点から レーニンを学ぶか

一るなかで、この言葉としては矛盾している内容を、現象 らば弁証法的に把握することである。 | て、それを語り、又は書いた当時の情勢をよみがえらせ 内容として語られている二つの論旨を、レーニンが生き その矛盾をめぐって、いくつかの解釈がなされており、 一ねばならない。レーニン全集のなかには、いうまでもな 要か。われわれはこの問題について、簡単にふれておか の階級闘争の発展との関連において、全体的に、いうな そのどちらの解釈が正しいかは、言葉としては矛盾した く、黄薬としては、矛盾している定式がいくつかあり、 レーニン全集から学ぶためには、どのような態度が必

してきたことに対して有効であり、そして、「極左臂験|は、レーニン主義をかたわにするものでしかない。 | 葉として理解するのみならず、階級闘争の具体的な姿と | おける階級闘争の現実との関連で、その思想を、単に鷲 の関連で分析し、レーニンの民主主義に対する思想の発 分をすべてぬき出すとともに、この思想が語られた時に ける階級闘争の現実との関連で、その思想を、のべた部 |をすべてぬき出すとともに、この思想が語られた時にお | ーニンが、民主主義に対する何らかの思想をのべた部分 の活動から晩年の活動にいたる全ての時期において、レ 全集のなかの矛盾した定式のうちでも、とくにむづかし みにあった一方を採用し、都合の悪い他 方 を 切りすて いものである。われわれは、それゆえ、レーニンの初期 民主主義に関するレーニンの積々の定式は、レーニン おうおうにして、各論者は、矛盾した定式のうち、好

程度の相異があるにすぎないからである。 政治的諸要求においては、原則的に異なるものではなく この政治的解放のための闘争においては、プロレタリア 何故なら、労働者民主々義とブルショア民主々義とは、 ートは、多くの同盟者をもっているということであり、 ルジョア民主々義革命のととに他ならないのであるが、 ートの政治的解放、それは、ツァー専制の打倒によるブ ところが、経済的解放、それは、労働者階級にとって すなわち、レーニンのここでの提起は、プロレタリア

専制と毀奴制に対する政治的解放の闘いにおいて、不徹 からもたらされるのであり、ブルジョアジーが、ツァー の程度の差は、まさに、 民主々義的要求とブルショアがかかげる民主々義的要求 は、労働者階級の経済的解放を勝ちとる社会主義革命の ロレタリアートの独自の任務である。労働者がかかげる レタリアとブルショアは敵対的関係にあるのであり、プ ととに他ならないのであるが、この点に関しては、プロ 、この両階級の経済的地位の相異

レーニンの態度について

ることなく、前進するであろう」 主義と原則的にちがっているのではなく、ただその程 銭は、その政治的諸要求においては、ブルジョア民主 めにこそ、プロレタリアートがあらゆる民主主義運動 を前方に押し進めることが必要である。労働者民主主 「政治闘争についていえば、まさに階級的見地のた ------、ところが政治的解放のための闘争にお 彼ら

(全集5、P37)

|性を否定する日共の論者達と異なり、レーニンの場合 関係を鮮明にしている。 ア民主々義とブルショア民主々義とに対し、両者の相互 は、当初から、民主々義と社会主義、及び、プロレタリ ために利用されている。だが、プロレタリアートの独自 一主々義革命を通じて社会主義革命へ、すなわち、人民民 主々錢革命を主張している今日の日共の路線を裏づける レーニンのこの時期の民主々義に対 する 定式は、民 社会主義的変革の第一歩を踏みだすのである」 通って、すなわち、民主的共和制という道を通って、 なく、唯一の可能な方法によって、唯一の正しい道を

(全集9、P

| て、その政治的要求においては、ブルショアシーの民主

々養的要求と根本的に異なるものではなく、程度の差が は、絶対主義に対する、政治的解放のための聞いにおい とを意味する。なぜならば、徹底した民主々義の実現と

あるにすぎないからである。

らせるならば、全くあやまった解釈なのである。 追ったものでしかなく当時の階級闘争の現実をよみがえ 一彼らはひき出すのである。たが、との結論は文字づらを は、徹底した民主々義的変革が必要であるという結論を るとのくだりである。民主共和制から社会主義に到るに 人民民主々義派が依拠するのが「二つの戦術」におけ ない。これがプロレタリアートの任務である」

輪点も、レーニンの言葉に依拠しているのであるが、そ | れがレーニン主義のブルショア的解釈であるととを示す一る誤りを正すためにも、この作業は不可欠である。 ためにも、そして、さらに、急進民主主義派が陥ってい

われわれと共に、革命戦争を前進させてゆかねばならない。

け武装闘争、革命戦争を闘ってきた諸党派は、早急に、民主々義をめぐる思想的、理論的混乱を克服し、 的混乱に対して、それを正してゆくことは、時宜を得たものと考える。旧来の急進民主々義諸派、とりわ 党派の政治路線も、との日共の政治路線の枠組の内に入ってしまっているのである。

更におし進めるための理論的準備がはじまっている。そして、「八・二五実行委員会」に結集している賭 したがって、ここで、日本共産党のこの恥ずべき試みの誤りをあばくと共に、急進民主々義諸派の理論

> レタリアートが民主々義的変革のために立ちあがること 会主義的変革を考えることは出来ない。それゆえ、プロ

トの見地をブルジョア思想へ売りわたし、民主連合政府によるブルジョアジーとの問題への一歩を

民 主 主 義 7 対 す る

〈第一章〉

見地」のなかに、その基本的な思想が述べられている。 は、すでに一九〇二年に徐かれた『政治的扇動と階級的 いては、われわれは多くの同盟者を持っており、 度においてちがっているだけである。経済的解放、社 …プロレタリアートは、最後まで、うしろをふりかえ に対して無関心な態度をとることはゆるされない。… ఫ్ట トは、原則的に別の土台に立っており、単独で闘って 会主義革命のための闘争においては、 プロレタリアー

義的独裁をめざした 義の問題 時期における民主主 農民の革命的民主主

なかで、プロレタリアートと農民の革命的民主々義的独 載というスローガンに煮つめられていった。 したツァーに対する人民蜂起、ストライキ闘争の発展の とのレーニンの問題意識は、一九〇五年になって激化 「われわれは社会主義的変革を延期しているのでは

味方にひきつけて社会主義的変革をやりとけねばなら の動揺性をマヒさせるために、半プロレタリア大衆を ブルジョアジーの抵抗を打破し、農民と小ブルジョア 遂行しなければならない。プロレタリアートは実力で 民大衆を味方にひきつけて民主々義的変革を最後まで し、ブルジョアジーの動揺性をマヒさせるために、農 「プロレタリアートは実力で専制の抵抗をおしつぶ

民主共和制を勝ちとること、民主々義的変革なしに、社 たしかに絶対主義の専制下にあったロシアにおいて、 最後の点より、はるかに先の方まで進もうとつとめて 遂行することを恐れないだけでなく、民主々務革命の 者階級とその自覚した代表者は、この闘争を最後まで 根本的相異も、またますます明瞭になってくる。労働 の、プロレタリア民主々截とブルジョア民主々義との 由のための労働者の闘争と、ブルジョアジーの闘争と にますますはっきり現われてくる。それとともに、自 さい、社会が要求し、地主と資本家が滔々たる芦葉で みするようになる点に、とりわけ現われている。その 擁護しているこの自由のブルジョア的性格は、したい いということを承認するようになり、自由の要求にく おされて、専制及び一般に最奴制度全体が役に立たな 会のいくたの階級、グループ、階層が、事態の勢いに 基礎の上にたち、その枠をこえることが出来ない。社 るかといえば、まったく私的所有と商品経済の承認の 「民主々義革命のブルジョア的性格はどこに現われ

結ぶことは、彼らが、この政治的解放の闘争で力を得た プロレタリアートが、社会主義革命へと前進することに

敵対せざるをえないことによるのである。

┃ 義革命・政治的解放のための闘いに関しては、ブルショ されているわけではないのである。 じめて社会主義革命の条件が訪れるといったことが主張 るように、民主々義革命を完遂しその徹底化の上に、は から、この時期においても、日共の簫者達が解釈してい 同盟関係の成立は、決して、プロレタリアートの社会主 |提案しているのである。 だから、 民主々 務闘争における | アジーや、そしてとりわけ、食農との同盟を結ぶてとを - 截革命をめざした独自活動を否定するものではない。 だ せ、そして、その上にたって、ツァー専制打倒。民主々終革命と社会主義革命との原則 上の 相異をはっきりさ とのように、レーニンは、封殲主義を打倒する民主々

(3) プロレタリアートと

> 徹底した民主々義的変革の実現をかかげてブルショアシ ーと闘争するのである。 い。そして、この同盟において、プロレタリアートは、 は、社会主義的変革のための力をつけ、それを利用すべ り、 すでに見てきたように、 民主 々 義 的変革に対して 争の目的は、階級の廃止をめざした社会主義的変革であ く、ブルショアシーの一部と一時の同盟を結ぶにすぎな は絶対に必要である。だが、プロレタリアートの階級闘

の階級的見地を放棄し、ブルジョア階級の立場に立つと に対するマルクス主義の原則を忘れ、プロレタリアート めの条件となるということを主張する人には、階級闘争 いて、徹底した民主々義的要求が、社会主義的変革のた リアートが同盟関係ではなく、敵対関係にある日本にお いて、社会主義的変革においては、真正面から敵対する 制の打倒、封建主義からの政治的解放をめざす闘いにお なくて、自由主義的ブルジョアジー及び、民主々義的小 | プロレタリアートと貧農が、徹底した民主々義的変革の 専制に対する、ブルショアジーの一部とプロレタリアー 底した民主々義の実現として表現されているのである。 的変革をめざすプロレタリアートは、当面するツァー専 ジーが権力を挙握していないロシアにおいて、社会主義 ブルジョアジーとの党派闘争の問題である。ブルジョア とすることは、そのことが社会主義的変革を導くのでは 実現を要求し、民主々義的変革を最後までおし進めよう タリアートが、民主々魏的変革を要求しており、そして ョアジー、民主々義的小ブルジョアジー、食農、プロレ れているのである。だから、ブルショアジーとプロレタ 王羲的変革のための有利な条件を獲得するために提出さ トの政治的問盟関係において、プロレタリアートが社会 その限りにおいて、ブルショアシーとの党派闘争が、徹 ブルジョアジーと同盟を結んでいるのであり、そして、 すなわち、ツァー専制に対して、自由主義的大ブルジ それゆえ、徹底した民主々義の実現とは、絶対主義の

との闘争の先頭に立ち、それをおし進める」

独裁であるとレーニンは定式化した。 ーガンは、プロレタリアートと農民の革命的民主々数的 主々義革命の先頭に立たねばならない。との革命のスロ で遂行するのみならず、その先にまで進めるために、民 階級と自覚したその指導者は、民主々義的変革を最後ま らかになり、その対立は発展してゆく。たから、労働者 ジョアジーとの同盟関係のなかで、この相違は次第に明 放とは、賃労働制の廃止だからである。それゆえ、ブル 由の獲得などであり、それは農奴制を賃労働制におきか 経済的解放とは、資本制的土地所有の実現、商工業の自 台に立っている。何故ならば、ブルショアシーがめざす い。だがブルジョアが要求する自由のための闘争とプロ ロレタリアートの要求とは、程度の 差 が あるにすぎな 的解放という点に関しては、ブルジョアジーの要求とプ にこの民主々義のための要求は、封建主義に対する政治 的所有と商品経済を廃止すること は 出 来ない。諸階級 えることであるのに対し、プロレタリアートの経済的解 放に関しては、根本的に相異しており、原則的に別の土 レタリアが要求する自由のための闘争は、その経済的解 ツァー専制を打倒して獲得される民主々義革命は、私 各々、自由の要求をかかげる。すでにみてきたよう ツァー専制に対する政治的解放のための闘争のなか

の点は、人民民主々義派が無視して いる ことがらであ 的独裁は、ロシアにおいては、レーニンが一九〇五年当 時に予想していたそのような形で実現されなかった。こ みるように、プロレタリアートと機民の革命的民主々義 ジーを収奪するととが、レーニンの計画であった。後で 義的独裁の意義であり、との共和制の下に、ブルショア ること、これがプロレタリアートと農民の革命的民主々 ルショアシーの独裁ではなく。プロレタリアートと農民 (小ブルジョアジー)との同盟による独裁として実現す ツァー専制打倒の後に形成される民主共和制を、大ブ | うに読みとれるし、事実日共や、日共左派の諸君、また 民主々義の実現が、社会主義革命の勝利の条件であるよ | えないということであり、資本主義社会における完全な | な民主々義を実現しなければ、社会主義の勝利」はあり

題であるというのがレーニンの見解である。 れなければ、その差は、根本的な差ではなく、程度の問 をまず絶対主義の専制政府と、幾奴制に対する、政治的 る態度をまとめておこう。レーニンは、民主々義の問題 いる。これら両者は、経済的解放というごとを考慮に入 求と、プロレタリアトの民主々藝的精要求とを考察して、 解放の闘いにおける、ブルショアシーの民主々務的諸要 次にレーニンは、ブルジョアジーの民主々義闘争とプ ここで、この時期におけるレーニンの民主々懿に対す 利」=「ブルショアジーに対する勝利」ではなく、プロ が語っている「社会主義の勝利」が「社会主義革命の勝 いる。だが、少し注意深く読めば、この部分でレーニン 一部の赤軍派の諸君も、この部分をそのように解釈して

由、経済的解放の実現のための聞いと不可分のものとし ざして関われるのみばかりか、当然 に も 、 白からの自 のためのプロレタリアートの民主々数的要求の実現をめ ろで、プロレタリアートの民主々義闘争は、政治的解放 化することによって、との趣問は克服されている。とこ 属家、プロレタリア民主々戦をプロレタリア国家と定式 る。これは、後には、ブルジェア民主々概をブルジョア として表現する)には、若干のあいまいさが含まれてい て存在している。また、ブルショアジーの民主々義闘争 **表現しているが、この表現(民主々義闘争を、民主々義** たつを、ブルショア民主々義とプロレタリア民主々義を | ジーに対する勝利のために必要だということが語られて 根本的な相違について述べている。レーニンは、このふ| ロレタリアートの民主々義闘争の考察に関しては、その

ればならない、とされたのである。 ことなく、プロレタリアートの経済的解放をめざさなけ | ジョア民主々義革命の先頭に立ち、その終極にとどめる | たがって、プロレタリアートの自覧した指導者は、ブル トの民主々義闘争の根本的相違は、ことに由来する。し 対するブルジョアジーの民主々義闘争とプロレタリアー という志向が含まれている。だから、絶対主義的専制に の民主々義闘争は、これらの諸関係と制度を廃止しよう を防御しようとするものであるのに対し、プロレタリア は、すでに発達しつつある資本制的生産模式と質労働制

#### (<del>4</del>) 帝国主義的経済主義 と民主主義闘争

| の実現」や「根本的な民主々義的要求」について語って 的経済主義を批判し、民族自決のスローガンを擁護した 諸論文である。レーニンは、ここでは「完全な民主々藝 転化論のよりどころとされているのである。 分は、第一次世界帝國主義戦争の開始の際に、帝国主義 いるが、これらの言葉が、民主々義の社会主義への成長 人民民主々義派がよりどころにしているもう一つの部

―に対する勝利を準備することは出来ない」 争をおとなわないプロレタリアートは、ブルショアシ に、民主々義のための全面的な、一貫した、革命的関 会主義革命からそらせ、もしくはそれを妨害し、あい しなければ、社会主 義 の 勝利のありえないのと同様 本的な誤りであろう。反対に、完全な民主々義を実現 まいにする恐れがあるなどと考えるならば、それは根 一民主々酸のための闘争は、プロレタリアートを社

## との部分は、これだけとりだしてみるならば、「完全 (金編22、P 186)

えないプロレタリアートは、ブルジョアジーに対して勝 | 義的傾向を批判しているにすぎないのである。 | 利することが出来ないことを指摘し、帝国主義的経済主 | らないことを指摘し、そしてまた民主々義闘争すら聞い 。を対立させ、敵対的なものと考えている人々に対して、 しているように、完全な民主々義の実現が、ブルジョア 勝利をえた社会主義は、完全な民主々数を実現せればな いるのではなくて、民主々較のための闘争と社会主義と だから、この部分は、人民民主々義派である日共が解釈 々義」とは勝利をえた社会主義に関して語られている。 えた社会主義は、かならず完全な民主々義を実現しなけ が念頭におかれていることを読みとることが出来る。 | レタリア革命に成功した後の社会主義政権の勝利のこと ればならない」と書いており、この部分の「完全な民主 レーニンは、とのテーゼの第一項において、「勝利を | 団主護経済主義について」)。よれているように、「官吏 | 総活動の経験をつみ、とのととによって共産主義革命を

民地の即時線放の要求もまた資本主義のもとでは、一|て当然にも、根本的な民主々義的要求を含むものである|主々義を実現しなければ、社会主義の勝利はありえない 「あらゆる革命的な社会民主々義が提出している椋

らない のこれらの要求を改良主義的でなしに革命的にまとめ一 であろう。まさにその反対に、社会民主々義はすべて 闘争を、ブルジョアジーに対するプロレタリアートの は、ブルジョアジーと反動との利益になるにすぎない ことには決してならない――その よう に放棄するの 求のための即時の、もっとも断固たる闘争を放棄する する社会主義革命にまで、拡大し、激成しなければな | 主々義闘争を利用しなければならないという思想が語ら | きいれ、いっさいの根本的な民主々義的要求のための一 さきの抗職に満足しないで、大衆を積極的な行助にひ の椊に局限しないで、それを破壊し、議会的行動や口 あげ、実行しなければならない。ブルショア的合法性

### (全無22、P 167

八木君や烽火一派も例外ではない)だが、この解釈も、 れていると、人民民主主義派には思われるのである。 主々義闘争を、革命的に闘うこと、民主々義闘争を社会

┃のための闘争を、ブルジョアジーにたいする、プロレタ ┃ に社会主義を要求する闘争などありえない事は自明であ | 争を放棄することなく、そして又、それを改良主義的に を収奪する社会主義革命にまで、拡大し激成しなければ リアートの直接の攻撃にまで、すなわちブルショアシー されている。そして「いっさい根本的な民主々義的要求 | 闘うのではなく、革命的に闘わねばならないととが主張 | めに、民主々義をエサにする、といったニュアンスで理 たしかに、とこでは、社会民主々義派は、民主々義闘|おこう。烽火一派の諸君は、との「利用」 とい う営薬

な自由、等々」のことであり、との要求は、ブルショア または士官の人民選挙、結社および集会のもっとも完全 | 求のための闘争によって「点火」されることがありうる ていることは、社会主義革命が、根本的な民主々義的要 | 引用句のつづきをみれば、明白であるが、ここで語られ 自身も、別のところで(『マルクス主義の戯画および帝 ないことが語られているのである。 し、また、民主々義闘争をそのように関わなければなら るのであるが、しかしそれは誤まった解釈である。との が、社会主義革命にまで拡大するかの如く解釈されてい というのは、根本的な民主々義的要求とは、レーニン

| の性格とプロレタリアートの民主々義闘争の性格との決 | る思想闘争として語られている。それゆえ、第一に、民 | 遠が、絶対主義に対するブルショアシーの民主々義闘争 | て、帝闘主義に屈服している帝国主義的経済主義に対す | ことが明らかにされた。そして、この経済的な地位の相 | し、経済的解放に関しては、全く別の土台にたっている | で、民主々義闘争すら、圧殺されるという、階級闘争の ては、ブルジョアジーとプロレタリアートの要求は、根 本的に異なるものではなく、程度の差であること、しか に対する政治的解放の闘いにおいて、政治的要求におい

速の革命なしには「実現不能」である。しかし、だか一が、それとは本質的に異なった、労働者階級の経済的解 」ことを主張し、プロレタリア独戦のもとでの民主々義 だから、社会主義的要求とは、その政治的部分におい

ないからである。

根本的にまちがっている。 この部分も、 これだけとりだすことによって、 人民民

「ならない」ことが強調されている。 この言葉は、根本的な民主々義的要 求の ための関争

一主義的要求ではない。 ジーを収奪し、労働者階級の経済的解放をめざした社会|の解放を実現することが出来ないことを、その闘争のな 先に、一九○五年前後の時期において絶対主義の専制|総と闘争に意識的に参加することを学ぶことである。

定なちがいをもたらすのであった。

直接の攻撃にまで、すなわち、ブルジョアジーを収奪 | られるのではなくて、逆に、社会主義革命のために、民 | と、一方、民主々義闘争の社会主義革命への発展転化を | の革命なしには実現不能なことを明らかにする。では、 | 帝国主義のもとでは、根本的な民主々義的要求は、一連 を勝ちとるために、民主々義闘争を利用しなければなら | リアートが社会主義革命、ブルショアジーに対する勝利 何のために民主々義闘争を闘うのか。それは、プロレタ

| 主義のための闘争へと連続的に発展させることが主張さ | 革命的大衆闘争に従属させねばならないこと」というこ | 主々義派が、依拠しているところである。ここでは、 民 | ての根本的要求のための闘争と同じように、これをブル とを、全く無視している。 | ジョア政府打倒のための、社会主義実現のための直接の | 要求 (民族自決) のための闘争は政治的民主々義のすべ それゆえ、レーニンは、テーゼの最後の部分に「この

| 綱領は、たかだか大衆を組織するための諸要求以上の位 | 定式化された民主々義闘争の要求は、プロ独下において | る」 ことを確信している彼らにあっては、最小限綱領に |解している。「一般に資本主義社会の闘争はストレート | を、あたかもマヌーバー、ないし、社会主義の実現のた える結果「利用」といった観点は、彼らには大衆に対す | 々義闘争をプロレタリア革命にとって本質的な問題と考 | 置は与えられない」トロツキズム的傾向を克服し、民主 もひきつがれると考えられており、したがって「最小限

|新しい条件に対し、民主々養闘争を否定することによっ | 諸脳争を強化するために利用するということであり、第 鼠主義戦争における、ブルショアジーの専制支配のもと に対する態度をまとめておくならば、この時期には、帝 り、第三に、民主々義闘争のみによっては、労働者階級 闘う能力を獲得するための不可避の前提となることであ 一二に、その闘争の過程で、プロレタリアートが種々の組 | 争によって獲得された成果(政治的自由や、労働者保護 かで、生活経験として蓄積し、共産主義革命のための組 等)をプロレタリアートが共産主義革命のための組織と さて、帝国主義戦争下における、レーニンの民主々義 われわれが「利用」という場合、第一に、民主々義闘

らといって、社会民主々務は、とのようなすべての要一放のための、ブルショアシーの収奪を意味する。それは「の問題に関して、言及されている。 レーニンが、この部分で述べている、根本的な民主々(した。そして第四にこれらのレーニンの民主々義に対す

て、民主々義闘争の社会主義革命への発展としてとらえ 主義革命の点火の条件にしようということは、したがっ 終的要求を、社会主義革命にまで拡大し、激成し、社会 れているのである。

ことで、「利用」ということについて、若干補足して

| る「ひき回し」のように思えるのである。

提起したのである。

戦争下の帝国主義諸国における民主々義闘争の重要性を

| する抵抗を組織しえない社会主義者に対し、「完全な民 主々義と社会主義とを分離し、民主々義闘争の圧殺に対 た、より独特な、より特異な、より 復 雑な形をとっ は、寒陰は、子想できなかった、ちがった形をとっ な政治的機関を予想したものではないからである。ソ にすぎず、この相互関係、この協働を実現する具体的 なら、この公式は、諸階級の相互関係を予想したもの 的独裁はロシア革命ではすでに実現されている。なぜ た、と。……プロタリアートと機民の革命的民主々義 **般的には歴史によって完全に確証されたが、具体的に** ェヴィキのスローガンと思想が正しかったことは、一

| 者の見解は、民主々義と社会主義との区別をあいまいに る思想は、いうまでもなく、民主々義闘争を社会主義の 説いたり、社会文化革命の内容が、根本的な民主々義で ることが出来ないことが主張され、第三に、帝国主義の あると考えたりすることとは、全く別の問題である。後 ための闘争に従属させるという原則を前提にしている。 となりうることを指摘し、社会主義者は、民主主義闘争 **専制下においては、民主々義闘争が、社会革命の発火点** リアートは、自からの経済的解放を勝ちとる能力をつけ 帝国主義の下で民主々義闘争の重要性を強闘すること を社会革命の発火点とすべく努力しなければならないと そして第二に、民主々義闘争すら闘いえないプロレタ

とをつけ加えたのであるが、人民民主々義派は、このと人は、第一次世界帝国主義戦争の時期の帝国主義が「民主 |張した帝国主義的経済主義に対し、第一次世界帝国主義 た、帝国主義の専制への屈服、民主々義闘争の放棄を主 える必要がない」という、革命的空文句のかげにかくれ 一截は勝利をしめた、それゆえ政治的民主々義の問題を考 | 政治的反動への転換」を進めているがゆえに、「帝國主 | な、この後者の見解に組するものではない。彼の窓図 立つととを意味する。 | し、両者を折衷し、その結果、ブルショア階級の見地に 々義の破壊を欲し、反動を欲」しており「民主々義から レーニンの見解は、人民民主々義 派 が 主張するよう

#### (5) ロレタリア民主主義 ソヴィエト権力、プ

と民主主義の諸問題

を強化することが、社会民主党の任務のごとく思われ、 見るのではなく単なる闘争機関と見なし、臨時革命政府 ーニンは次のように語っている。 ボリシェヴィキの路線を保持してきた人々に対して、レ 実際、四月までのボリシェヴィキはそのように行動して ローガンを文字通り受けとるならば、ソビエトを権力と ロレタリアートと農民の革命的民主々義的独裁というス が、一九〇五年以来のボリシェヴィキの戦術であったプ るべき対象であることを、四月テーゼで示した。ところ 一そが、労働省階級の政府であり、臨時革命政府は打倒さ 二重権力状態の実現のなかで、レーニンは、ソビエトと ジーの臨時革命政府とプロレタリアートのソビエトとの 一九一七年二月革命における帝政の打倒、ブルショア

きた。(スターリン、カーメネフの指導の下に)旧来の | 主々義=プロレタリア民主々義の相違について、具体的 「私はこれについては次のようにこたえる。ボリシ | 的な民主々義、民主々義の完全な異現の こ となのであ くりだすことにあり、そしてこのことは他ならぬ、 | 構を粉砕し人民自身の統制の下に新しい頑隊、官吏をつ いる。これに対して、ソビエト民主々義は、これらの機 とが出来ず、ブルジョア階級の道具として役立てられて に指摘した。すなわち、最も民主的なブルショア共和国 | エトとの比較を行い、ブルジョア民主々嵌とソビエト民 においても、常備軍、警察、官吏は事実上やめさせると

た。この程度の差は、具体的な階級闘争の場において、 と官吏の性格の問題として、その相違があきらかにされ |タリアートの民主々義的要求の程度の差の問題が、軍隊 かくして、ブルショアシーの民主々義的要求とプロレ <u>る</u>

プロレタリアートと農民の革命的民主々義的独裁であ ビエト、これとそ、生活によってすでに実現された、 (全集24、P27~28)

| 七年に帝政が打倒され、臨時革命政府とともにソビエト ビエトの経験、さらに、モスクワ蜂起の経験は、一九一 主義革命の開始にむけての活動にふみ切らせたのであっ も再生したとき、レーニンをして、すみやかに、政治権 れている。たが、一九〇五年ペトログラードにおけるソ コンミューンに対するレーニンの評価のなかにもあらわ かなり長い寿命をもつであろうと考えたことは、 一般が、あれてれと予想されていたわけではない。だが、 | プロレタリアートと農民の革命的民主々務的独裁という 力の移行、ブルジョア民主々銭革命の終了の宣言と社会 スローガンは、帝政を打倒した後に生れる共和制を予想 レーニン自身、資本主義を土台にした、この共和制が、 したものに他ならなかった。もちろん、との共和制の形 たしかに、一九〇五年にソビエトが誕生するまでは、 パリ

- トの国家機関へと組織するために、全力をあげた。 レーニンは、この再生したソビエトを、プロレタリア 「ブルジョア国家のうちでもっとも完成し、もっと

の上にたつ官僚である。 とでは、権力は踏会に属するが、国家機構、行政組織 察は事実上やめさせることの出来ない、特権的な人民 と機関とは普通のものである。すなわち、常備軍、 も進歩したものは、議会主義的民主共和制である。そ

の武装に代えるものである。との点にブルショア的著 なった国家『もはや本来の意味での国家ではない』国 曲解されているコンミューンの本質がある。 会主義をただちに「導入」しようと意図したものだと 述家たちによって、そしられ、中傷され、とりわけ社 の表現をかりていえば、ある点ではすでに国家でなく のいっそう高度の型をおしだした。これはエンゲルス って、人民からはなれた軍隊と警察を人民自身の直接 家である。それは、パリコンミューンの型の国家であ ロシア革命が、一九〇五年と一九一七年につくりは しかし一九Cにはじまる革命時代は、民主々義国家

とのように、レーニンは、ブルショア国家のうちで最

た

じめたものは、まさしく、 こうい う 型 の国家であっ

も選歩した、職会主義的民主主義的民主共和制と、ソビ

を促し、経済的発展の影響を受ける。これが生きた歴

勝利した社会主義によってはじめて実現されることにな 発展し、プロレタリアートが、かかげる根本的民主々義 その要求を突視してゆく過程においては、根本的意義に

教服した民主主義』についてである。『国立と革命』で レーニンは次のように含っている。 さて、ここでぜひともふれておかねばならないのは

「ここでエンゲルスは、徹底した民主々続が、一方

では社会主義へ転化するが、他方では社会主義小婆求 れは経済に対してもその影響をおよぼし、経済の改革 別的にあるものではなく、他のものと一体をなす。そ ではない。だが繁生活では、民主を競は、けっして個 命のための闘争を構成する任務の一つである。 傷別的 って試験すること等々すべてこうしたことは、社会革 の簡形態をさがしだすこと、それらの形態を実践によ の単純な作業にならればならないからである。……。 りにも手におえる、こなすことのできる、統制と計算 住民の大多数のものに、あとでは全住民のひとりひと ら、関係を略絶するためには、関係公務の賭機能が、 するという、興味ある眼界点に近づいている。たぜな には、どのような民主々幾も社会主義をもたらすもの 民主々義を徹底的に発展させること、そうした発展 いある

との部分は、「フランスの内乱」へのエンゲルスの序

だ、と多くの人々は考えてしまう。 民主主義派や、民主々義者、さらには構改派にまで、都 文に関する、レーニンの寄祭である。この言様は、人民 徹底した民主々魏の要求が、社会主義革命を準備するの た民主々義は、一方では社会主義に転化する」。だから 合のよいよりどとろを与えているようである。 「徹底し だが、レーニンが、この結論をひきだした、当のエン

ロレタリア独裁について語られたものにすぎない。 はなく、プロレタリア関家、プロレタリア民主々義、プ ジェア国家やブルジョア民主々義について語られたので 社会主義に転化する」と磨ったとしても、それは、ブル ら、ことでレーニンが「徹底」した民空々義が一方では ルスは、その序文の該当部分では、なんと、コンミュー ゲルスの序文は何について語っているだろうか。エンゲ ン国祭の民主々義について、述べているのである。だか だからこの雷墜は、先に分折した「完全な民主々義を

を示すのみであり、ブルジョア思想への屈服を示すのみ は、解釈する人々の「純粋民主々義」への幻想の大きさ 主戮派の思想に論拠を与えるのであるが、こうした解釈 の土台のもとでのブルジェア民主々競や、民主な義に関 問題に関して際られているのである。これを、紫本主義 想と同様、プロレタリテ独裁の時期における民主々義の 実現しなければ社会主義の勝利はありえない」という思 して語られたものと思いてむことによってのみ、人民民 ある。

挙に関する、あらゆる官僚的な形式主義や制限がなく て、ブルジョアジーは排除されていること、第二に選 的性格は、第一に選挙人が勤 労 奢 被搾取大衆であっ 施されている。プロレタリア民主々雑――の社会主義 「ソビエト民主々幾――すなわち、具体的に現在実

ていること、第三に、勤労省の前径である大工業プロ なっていて、大衆自身が選挙の手 続き や期日を決定 れ、彼らを自身の経験によって政治的に教育すること 取大衆を指導し、彼らを得主的な 政治 生活にひきい し、避秘されたものをリコールする完全な自由をもっ てつくられることにある。 めぶための、また管理しはじめるための帰郷が、はじ され、前衛はこの組織によって、もっとも広範な被控 レタリアートのもっともすぐれた大衆組織がつくりだ が出来、こうして住民が裏にひとりのころず管理を学

り、社会主義的民主々義への、图案が死滅しはじめる ことを可能にする条件への、移行である」 り、民主々範のブルジョア的頚曲と絶縁したものであ ある。この民主々務は、より高度な製の民主々終であ これがロシアで無応された民主々総の主要な特徴で

レーニンは、ここで、ソビエト民主主義の社会主義的

がって、いまだ実現されていない。 魔様式の発展が不可欠の前提であり、ソビエト民主々義 することによって、国家を、民主々義を、政治を死滅さ が、ここで、バラ色に描いたソビエト民主々義は、した せるためには、労働者階級の経済的解放、社会主義的生

|して、反宮佞主義、政治的自由、民主化として、とりあ | 会の自由」ひとつとってみても、資本家は、金を持って 主義のための闘争が、完全な民主と裁を専現しつるので 一義の完全な実現が社会主義を準備するのではなく、社会 | 全に実現しないでは社会主義は勝利できないが、民主々 た、ここにあげられたことは、あくまでも、プロレタリ があげたこと以上の問題を考えることは出来ないし、ま なわち、共所主義のための闘争に従属させて、民主々義 | プロレタリアートの世界独裁という問題の実現にむけて もたらす。われわれは、そうならないために、民主々談 げるだけでは、無政府主義、ブルジョア思想への役退を ということ以上のものではない。だから、民主々羲を完 ア民主々終が、共産主義実現のための道具として役立つ ビエト民主々銃の社会主義的性格とは、ここにレーニン の問題を考察しなければならない。いずれにしても、ソ 、どのような態度を取っているか、ということから、す とは出来ない。問題は労働者国家における指導的政党が の問題としては、ソビエト民主々総をこれ以上論じると このソビエト民主 左銭の問題は、単に政治上の制題と

#### (6) との党派闘争 「純粋民主主義」

見主義、とのレーニンの思想闘争、党派闘争に関してふ こうとしない部分、すなわち、第三インター結成の前後 から激化した、民主々能をめぐるブルジョア思想、日和 最後に、人民民主々義派にとって耳がいたい部分、関

一れておかねばならない。 「ソビエト権力の木質は、資本主義によって抑圧さーショナルのすべての代表者にみられる旅行の小ブルジ

るのである」 時、確実にしかも決定的な役割をもって参加させられ 由を行使したりすることの出来なかった大衆、ほかな されて、政治生活に参加したり、民主々義的権利と自 が、実際には無数の手だてや策略によってのけものに 主々義的なブルショア共和国でも、法律 上は 同権だ 民)の大衆組織が、国家橋力全体、国家機構全体の唯 くなくとも一部分を常時売らないわけにはゆかない機 らぬその大衆が、いまや国家の民主々義 的 統 括に常 一の恒常的な基礎となるという点にある。どんなに民

| 社会主義的変革における政治上の問題として分析されて | き、そして、このような、ブルジョアシーと、その周髃 て、その民主々義の具体的内容が決定される。レーニン | ア民主々義だけであり、それはブルジョアシーの、支配 は、プロレタリア独規のもとでの階級闘争の内拠によっ|諸国に民主主義一般などは存在せず、あるのはブルショ 性格について考察しているが、その内容は、プロ独下の | 載を否定し民主主義を譲継する」ととにあることをみぬ ソビエト民主々義が、完全な民主々哉を実現し、そう┃具合に、隔極を具体的に考えず、民主主義一般、独裁─ らである。 階級の民主々鑫であり、ブルジョアジーの独裁であるか 階級闘争をおおいかくしている。というのは、資本主義 している。そして問題を一般的に立てることによって、 般という概念をもてあそんでいるにすぎないことを批判 者の考え方が、どの階級についての民主主義が、という とともに発展してきたブルジョアジーの思想攻撃が「独 テーゼと報告』において、プロレタリア革命運動の成長 ルジョア民主主義とプロレタリアートの独裁についての レーニンは、第三インターナショナル一回大会の『ブ

れる。 面から制限されるばかりか、権力機関によっても哪圧さ **者階級の場合は、建物も制限されるし、宣伝も物質力の | は、実際には、商品生産の請期係の模写である諸概念を** 自由にでき、さらに極力機関が保護するのに対し、労働 なわち 「自由、平等、民主々義につい て のきまり文句 たとえば、資本主義諸国における民主々義とは、「集

労働制度の廃止にむかわざるをえないところにあり、と | 労働者を賃労動制度にしばりつけておくことに利益をみ | 原則を修正するものとして、ポリシエヴィキによって批 | すことが、どの辞書にも示されている。たから、ディク 済的地位の相違によって、すなわち、一方が資本制的生 るのは、法律上、同様であっても、資本家と労働者の経 階級にとっては、空文句である。このような問題がおき アジーにとっては、文字通り自由を意味するが、労働者 主々義、すなわち、資本家階級を収奪することを土台に てくるのであり、それを薪礎にして、政治上の整別が生 | ア民主々終がブルジョア独裁であることを否定し、ブル のことを基礎に階級対立が激化し、実際には差別が生れ | が実現可能であるという考えば、政治的には、ブルショ いだすのに対し、他方が、資本制的生産様式の廃止、質 魔様式のもとでの支配階級であり、生産手段を独占し、 資本家階級の収奪のうえにたった民主々義のことなので するしかない。そしてプロレタリア民主々戦とは、この するためには、被搾取大衆の民主々蔵、プロレタリア民 れてくるのである。だから法律上の同権を文字通り実現 だから「集会の自由」とは、支配階級であるブルショ

つうじて社会主義へ移行するという。 第三インターナ 係をいっしょにつきあわせてみれば、民主々義一般を トの独裁によって修正されたこれらの勢力の相互関 「すべての基本的勢力または階級と、プロレタリア

デオロギーへの配服である。

れていたまさにその階級、すなわち、労働者と半プロ

する民主々義か? (金獎30、P 18)

「ブルショア民主々義からプロレタリア独裁への歴

ョアジーの覆縅か、それとも諸階級の取引、協定か」 **砕、後者の生態か?、=革命か、それとも革命なしに** 『成長移行』『はいこみ』か、それ とも前者の粉

| 盲目的にくりかえすのに等しい」と。 説く第二インターの見解を批判しつつ、との民主々義一 レーニンは、民主々務の実現から社会主義への移行を (全集30、口90)

判された。 レタリアートの独裁を樹立するという、マルクス主義の | った。この主張は、ブルジョア関家機関を粉砕し、プロ |勝利によって、騰会で多数派を形成するというものであ 一げるというものであり、具体的には、普通選挙における じて、労働者階級が国家権力を握り、社会変革をなしと 土台のうえで、民主々銭を完全に実施し、そのことを通 かってカウツキーらに代表された見解は、資本主義の

| 済的にも、自由、平等な人格であるというブルショアイ ことを主張するものであり、この思想が、民主々銭に対 は、ブルショジーとブロレタリアートは、政治的にも経 での両階級の和解を主張することによって、支配階級と | 幾におけるブルジョアジーとプロレタリアートの階級対 | きたとおりである。この考え方は、経済的には、資本主 するレーニンの態度とは無縁であることは、すでにみて ジョア民主々義がプロレタリア民主々義へ成長転化する してのブルジョアジーを援助することを意味する。これ 立を否定し、階級の協調をとき、資本主義の土台のうえ

う。民主々籤が、絶対的な、超階級的な内実をもって り、どんなに膨ドンなものであるかがわかるであろ ョア的な考えが、理論上どんなに版ぬけにばかげてお もまた、まったく新しい局面に移行し、階級闘争は、 ありとあらゆる形態を支配しながら、より高い段階に には、プロレタリアートの独裁のもとでは、民主々義 入楓――とれが、この誤りの薬礎である。だが、爽際

るだけである。どの階級の抑圧からの自由か、どの階 理論的、原則的立場に移ることを意味する。 プロレタ 際には、商品生産の諸関係の模写である諸概念を盲目 義か、それとも私的所有の廃止をめざす闘争を基盤と 級とどの階級との平等か、私的所有にもとずく民主々 リアの見地からは問題は、ただつきのように立てられ ようとすることは、全線にわたってブルジョアジーの 的にくりかえすのに等しい。プロレタリアートの独裁 の具体的諸任務をこれらのきまり文句によって解釈し 自由、平等、民主々務についてのきまり文句は、実

か? あたらしい階級による政治権力の獲得、ブルジー

ところで、資本主義の土台のうえで、完全な民主々義】 5、独裁 という意味が派生してきて いる ことが知られ

いるかの如くいう、ブルジョアジーから受けついた先|判を開始しようとしている。

プロ独抹殺論への批判=

主義」より成りたっている。

いることから、無会場を自由に使用でき、また、富伝も一般を飾りる彼らの見解の経済的基礎を批判している。す」に、日共の本心を置いあらわしていることが知れるから である。 | わす』といわれているように、との訳語の変更は、意外 | れるのは、日本史である。鎌倉幕府の北条氏が「執極」 まえがき」に若干つきあうことにしよう。「名は体を現 が、「言語学」的な見地から主張されている。少々本来 | 訳すのではなく「執権」と、訳した方がよいというとと | る。これは全くサギである。なぜなら、【執権」という のテーマからはそれるのであるが、われわれも、この「

という言葉を借りて来たのである。 では困るのでドイツ語の辞書から、耳なれない「執政」 銭の否定や、恐怖政治という風に常識的に解釈し、それ まず、著者は、「独裁」という言葉の意味を、民主々

との比較を行ってみよう。

し、この鎌倉署府の「執権」と古代ローマの「執政官」

は、どの辞書にも見ることが出来る。 の辞儀でひいてみると、たしかに、山執政官、②独裁、 だが、この執政官は、古代ローマの執政官のことを指 | ら迎えた無力の将軍を擁して、幕府政治の実権を掌握す

は、この独裁を無用のものとすることが出来す、シーザ 独裁が専制へと転化したのは、当時の生産様式のもとで と専制とを同一視することはまちがっている。ローマの - に到って専制へと転化した。このことをもって、独裁 目的にしていた点にある。もちろん古代ローマにおいて 異なるのは、独裁政治が、自分自身を無用にすることを 代の潜主政治や、またヨーロッパの君主制の専制政治と 視した独裁権を与えたものであり、これが、ギリシャ時 服するために六ケ月以内の期間を限って、平時の法を無 院が、総領によって任命された執政官に、非常事態を克 古代ローマの執政官は、内乱と外戦に悩まされた元老 | 純粋民主々義」を信じ込んでいる人々の政治的誤りを明

| 平等な関係をとり結んでいるという現在のブルジョアイ | 賃労働者は、労働力商品所有者として、資本家と自由、 資本家階級への労働者階級の経済的隷属をみぬけず、

に即して、次に批判していくことにしよう。

| らかにするとともに、その誤まった資本主選批判への批 | ニンの態度を資本主義批判と結びつけて学びとり、ブル この時期でのレーニンの民主々義派との党派闘争は「一デオロギー、これは日共にも、八派にも、革命戦争派の 一部にも優適しているが、我々は民主々義に対するレー ンピオン、日共の『前衞』十一月号の論文を、その展開 ジョア思想に屈服している現在の人民民主々義派のチャ

## <第二章> 日共「人民民主主義革命 論にみる思想的混乱 『前衛』十一月号、

#### 革命的意義について と変更することの反 「独裁」を「執権」へ

(1)

論」「ロブルジョア民主々義革命における民主々義の骸

底的な実現の問題」「闫プロレタリアートの執権と民主 | その職、といったふつうの意味しかない。 そ こ で著者 「まえがき」では、「ディクタツーラ」を「独裁」と | す、全然別の「執権」という言葉をもって きたのであ 『前衛』十一月号、石田論文は、「まえがき」「[1]序 | 樹であり、自己の消滅を目的としていたととにあった。 は、ドイツ語に出て来た「執 政」という言葉を採用せ たのも、君主制や潜主制による専制とは異なった政治体 れており、とこから、独裁政治という新しい蒿葉が生れ 裁が、専制をまねいたのではないのである。 ところで、日本語の「執政」には、政治を行う人や、 とのように、古代ローマの執政官は、独裁権を与えら

薬があるからである。 言葉には、ドイツ語ではディクタツーラではなく別の含 すりかえた著者のペテンは、とこでは追求しないことに と呼ばれた地位にあり、この北条氏の政治を「執権政治 」と呼んでいたのである。とこで「執政」を「執権」に ところで「執権」という耳なれない言葉から思いださ

タツーラという言葉は古代ローマの執政官という意味か | ての政治形態は一種の潜主政治であり、その本質は専制 という二つの日本籍に訳されている。たしかに、との訳 ┃ る)の地位につけたことにはじまる。北条時政は、との Dikatur (ディクタツーラ)という単語をドイツ語 | 軍の補佐役として北条時政を政所別 当 に 任命し、執権 | るとともに執権の地位も北条氏の世襲とした。たから、 である。 職にあって、次第に権力を握り、源氏滅亡以降、京都か (この言葉そのものは、朝廷の位階制における官位であ 鎌倉幕府における執権政治は、三代将軍頭実朝が、将

一つ。両者は全く異なった性格をもっている。 | 」の「独蠍政治」を同一視することは全くあやまってい との鎌倉幕府の「執権政治」と古代ローマの「執政官

とである。 | や、封建君主による専制政治は異なったものであったこ による独裁政治は、ギリシャの藩主制 に よ る専制政治 | よる独義政治を理想にしているわけではない。 ただ明確 にしておかなければならないのは、古代ローマの執政官 ところで、マルクス主義者は、古代ローマの執政官に

はさけることが出来なかったことによるのであって、独一ブルショア的偏見からも自由な概念である く異なったところの、そして又、民主々義の否定という | 階級の独裁であり、それゆえ、それは、専制政治とは全 マルクス主義の原則からすれば、独裁という概念は、

うな運命、死に瀕したブルショアジーに対する名医とし の社会民主党政権や、また日本の片山内閣がたどったよ ているのであるが、北条氏のようにうまくやることは出 る共産党政権にあることを物語っている。どうやら、日 していることは、彼らの意図が、ブルショア国家におけ れ、ブルジョ法に東縛されることのないプロレタリアー 日共が、ブルショア国家を粉砕することによって樹立さ は、日本語の場合、「政権」という意味である。だから あるのだろうか。元来、「執政」や「執権」という言葉 ペテン師的にすりかえている日本共産党の本心はどこに 変更は、内容上の変更をともなっている。 ての役割でしかないのだから。このように、この訳語の 来ない。現在の「執権」職は、ドイツワイマール共和国 すなわち、ブルショアシーに対して「執権」職を要求し一 共は、鎌倉幕府の将軍に対する「執権」職のイメージ、 トの「独裁」を恐れ、「執権」という言葉に代えようと たが。

## 主義に対する態度 『前衛』論文の民主

及び社会における人民の平等な権利」を意味している、 | ることによって、政治的同権を、単なる言葉の問題から を批判したあと、民主々義と労働者階級の関係について ということから説きおこし、次に、ブルショア民主々義 | とにしよう。まず著者は、民主々磯が語源的には「国家 で簡潔に示されているので、ややたち入って見てみると 次に、序論の内容であるが、著者の基本主張が、こと

民主々義の道をとおらなければならない」 搾取のない社会主義、共産主義社会をうちたてるには の階級としての性格から、本質的に民主々義を求める ものである。......労働者階級がみずからを解放し、 も利益をえるのは労働者階級であり、労働者階級はそ かし民主々義を徹底的に実現するととによってもっと│客階級をブルジョア階級と同じ地位に解消するものであ され、そのときの支配階級に軽仕するものである。し|ら、民主々義の要求を説明していることは、第一に労働 構造と問じように、そのときの生産関係によって規定 「民主々義は階級社会におけるあらゆる政治的上部 だから、ことで、著者が、労働者階級の階級的性格か

ルジョアジーや進歩的小ブルジョアと間じものとされて | かりでなく、ブルジョア民主共和原においても「多数者 にあっては、労働者階級の階級的性格は、民主々義的ブ や小ブルジョジーと同じ地位におくことに等しい。騒雷 の要求と考えることは、労働者階級を、ブルジョアシー だから、労働者階級の「階級としての性格」を民主々義 者階級のみではなく、ブルジョアジーや、小ブルジョア ている。すなわち、民主々羲を求めるのは、ひとり労働 戦の要求と、本質的に異なるものではないことを見落し は、資本家階級の「階級としての性格」に模さす民主々 義を求める労働者階級の「階級的性格」とは、政治的に かりか、労働者階級の「階級としての性格」から、民主 とりあげることなく、一般的にとりあげている。 それば - も、歴史的踏条件のなかで、民主々義を求めてきた。 々戦を求めるものとされる。たが、この著者は、民主々 ことで著者は、民主々義の問題を、歴史的、具体的に **語られ、そして、この「民主々戦の道」をプロレタリア** 

から発生した。封建的支配階級は、被搾取者、筏支配寄 ブルショアジーとプロレタリアートは、封建社会の中 人界的に熱願させることによって、搾取と階級支配

| 様式を発展させ、資本制的生産様式を発展させ、資本主 | きつつ経済的に隷属させることによって、資本制的生産| |被支配者たる労働者階級を、政治的には同権のもとにお すら、実際の力となったのは、労働者階級と農民であっ 階級の支配をもたらすブルショア民主々義革命において 淡社会への革命を準備してきた。もちろん、ブルショア

| て、ブルジョアジーとプロレタリアートの利益は、人身 ては、進歩的な資本家と労働者の同盟関係は、新たな矛 級として強化されるにつれて、絶対主義との関係におい 生産様式が支配的になると共にブルジョア階級が支配階 識であろうが)によって絶対主義が打倒され、資本制的 をみる。だが、この両階級の同盟(意識されようが無意 的支配関係からの解放という点においては一時的な一致 唇をかかえることになった。 絶対主義と封建制度に対する政治的解放の闘いにおい

| が、労働者階級の経済的解放をなしとけ、階級を廃止す である。 者階級の階級的性格とは、この階級こそが、共産主義革 真実のものにすることが出来るのである。そして、労働 の、形式上の問題にすぎなくなってくる。共産主義こそ のような条件の下では、政治的問権は、単なる智難の上 命を実現する物質的諸条件をそなえていることをさすの 者の資本家への経済的隷属を解消するものではない。と 的な同権は、この新しい両階級の経済的不平等と、労働 絶対主義に対する自由、民主々義の要求、つまり政治

という概念にあてはまるものとして「民主々義の道」が して語られている。すなわち、プロレタリアートの独裁 部構造としての意味にとどまらず、一つの過度期社会と | 係として把握していることである。 │を政治的上部構造ととらえるのではなく、一つの階級関 │々義的独裁のスローガンにはふれているけれども、ロシ | り、第二に、その結果、컴雄とはウラハラに、民主々義 の道をとおらなければならない」という結論がみちびか れる。との「民主々義の道」は、政治的同権、政治的上 とこから、共産主**義**社会へいたる過程に、「民主々義

ートが「執権」するというととになっているのである。 主々義に発展させるために闘う」 現のために闘うし、ブルジョア民主々軽の実現してい 職をとりのぞき、 それを 漢の 国民の多数者のための民 る社会では、ブルジョア民主々義の狭い枠を破り、欺 社会では、ブルショア民主々義の完全な、徹底的な実|ヨア革命に関する考察をした結果が、先ほどの結論であ 「労働者階級は、中世的、封建的制度の残っている

| ふれることなく、人民の民主々義を打ちたて、そのこと | ブルジョア権力の強化の手段として位置づけ、活動した 一されるのである。このような理論は、後にくわしくふれ てゆくが、けっきょくのところ、資本主義の土台に手を 動建制度に対するブルジョア民主な殺革命や意味するは のための民主々義」の実現のために関うことが必要だと ここで含われているように、「民主々談の達」とは、

さて、歴史的事実を無視し、「執政」を「執権」へと」な生産関係であった。しかし資本家階級は、被搾取者、 │を進めてゆくという、日共の人民民主を選挙命、民主連 │ 以来、政治権力の移行という点におけるブルショア民主 | いる。次にはその修正をバクロしなければならない。 一つ。この路線を合理化するために、落者は、マルクス・ 合政府の樹立という路線を合理化しようとするものであ (3)

命」論 る「人民民主主義革 相違を無視し、プロ 農奴制と賃労働制の レタリアートを裏切

| 主々銭の問題にうつり、最後に日本における民主連合政 いる。 放のための闘いに関して、著者は次の結論をひき出して 府の問題がのべられている。封建主義に対する政治的解 主々義がのべられ、次に発達した資本主義国における民 的な実現の問題」においては、まず封建主義に対する民 「ロブルショア民主々義革命における民主々義の徹底

級をそれだけ社会主義に近づけるものである」 で、徹底したものであればあるほど、それは労働者階 ものではない。しかしブルジョア民主々養革命が完全 々義的独裁)はブルショア民主々義革命の枠を越える

民主々義革命が完全なものであるほど労働者階級を社会 く誤っている。 | 結論はロシア革命の歴史にてらしあわせてみるならば全 主義へ近づける、という結論を導いている。だが、この 著者は、ロシアの民主々義革命の経験からブルジョア

| と、そして、その革命の具体的経過は、<br />
一九〇五年にレ | 敗北し、一九一七年になってやっと帝政を打倒しえたこ | ポリシエヴィキのプロレタリアートと農民の革命的民主 ーニンが予想したものとは異なった経過をとったことに 一切ふれようとはしない。 アにおけるブルショア民主々義革命が、一九〇五年には 著者は、一九〇五年革命におけるレーニンの著作と、

| 菜ず、立旅な法律を施行することもなく、ブルジョア民 一命におけるブルショア権力は、憲法制定議会すら召集出 一る。ということは、歴史を具体的にみれば、先ほどの緒 | ア革命だとされている。著者自からが、ブルジョア革命 輪はひきだせないことを著者はみとめているのである。 であると考えている時期の歴史を何一つ述べずにブルジ そとには、一九一七年の二月がロシアにおけるブルショ タリア独裁のロシア的形態として次章で論じているが、 命の時期には、プロレタリア独裁の機関としてのソビエ 寒際一九一七年二月のロシアのブルジョア民主々義 **着情は、一九一七年のロシア革命については、プロレ** 

一ソビエト権力によって打倒されてしまった。 主々義革命が「完全に、徹底的に遂行される」以前に、 この革命の時期に、ブルジョア民主々義革命の完全な トが再生し、活動していた。このブルジョア民主々義革

を維持してきた。機奴制度は、そのなかでも最も基本的一を通じて、労働者階級が権力をに含り、社会主義的変革一のはメンシニヴィキであった。ポリシエヴィキは、四月一 | 遂行を主張し、ブルジョア権力を強化し、ソビエトを、

レーニン主義を、さまざまに修正するととをせまられて | ア民主々護革命の完全な、徹底した遂行は、社会主義革 「この変革(プロレタリアートと農民の革命的民主 | れることなく、社会主義革命によって打倒されたのであ | る。その結果民主々義的変革は、ソビェト権力とプロレ | | 主義革命へとおし進めたのであり、ロシアのブルショア | 々競革命において、ブルジョア権力が革命をその最後の の経験は、民主々義的変革の完遂が、労働者階級を社会 民主々義革命におけるブルショア権力は、完全に樹立さ 働者階級の闘争が、はじまったばかりのブルジョア民主 |主義へ近づけたのではなく、社会主義革命をめざした労 | 々義革命の終了を宣言し、社会主義 革 命 の開始を確認 らば、ブルジョア民主々義革命の完全な実施というスロ し、プロレタリア独衆の実現のために関った。ブルジョ ナミズムを一切理解出来ない。一九一七年のロシア革命 ーガンは、社会主義革命の褒切りに転化するのである。 ることができるが、一たん社会主義革命が開始されたな リアートが社会主義革命を闘う力をつけるために利用す 機のためのプロレタリアートの闘争のために、プロレタ 命が未だ日程にのぼっていない時期においては、社会主

タリアートによって担われることになった。 **者階級にとってきわめて重要な課題となっている。** 

命の構成要素となる」 民主々義革命の構成要素となり、また外国の帝国主義 れを一掃するための闘争と結びついて、反ファシズム ファシズムの残存物が残っている国々の場合には、そ …この独占ブルジョアジーの支配に反対する関争は、 も独占ブルショアジーの支配下に隷属させている。… の勤労者、小ブルジョアジーおよびブルショアジーの への従属という条件のもとで反帝反独占の民主々翁革 中するとともに、労働者階級をはじめ、農民、その他 家権力をますます少数の独占ブルショアジーの手に集 一部までふくめて、広範な国民を経済的にも政治的に

である。 命になるとされるのである。この「理論」はドイツ民主 るや、先のロシアのブルジョア革命の分析と五十歩百歩 共和国の例によって正当づけられているが、その論既だ 一義の従属という条件のもとでは、反帝反独占民主々彰革 合には、反ファシズム民主な影革命となり、外国帝周主 必要であり、この闘争は、ファシズムが支配している場 | 資本主義国、帝国主義国においては、独占ブルジョアジ | 々義闘争の問題を論じている。そして、 高度に発達した | 蕺革命の他に、高度に発遊した資本主義圏における民主 | | 除をひきだした容者は、次に、封建制度に対する民主々 | 一労働者階級をそれだけ社会主義に近づける、という結 ーが臀制支配をしているので、反独占、民主々戦闘争が 「民主々錢革命が完全で徹底したものであればあるほど ロシアにおけるブルジョア民主々義革命の教訓として

うに、発達した資本主義国における人民の民主々発草 「このドイツ民主共和國の例によっても明らかなよ

が民主々義、政治的同権をだいなしにし、空略にしてい 一占している資本家に労働者が経済的に繋属していること るいは数歩となるものである」

| 点にまでおし進める前に、ブルショア権力を打倒し社会 | 赤取による東ドイツの解放という事膜のなかに権力の移

の民主々義革命のほかに、帝国主義、独占資本の段階 にはいった発達した資本主義諸國では、独占資本の支 独占資本主義、ひいて国家独占資本主義の発展は国

(P.IIOII~II) 々総闘争を闘う。民主々義を単なる形式にしてしまって 一表現しようと考えることは小ブルショアの空想である。 いる原因である資本主義に手をふれないで、民主々務を の経済的解放を勝ちとるための闘いに利用すべく、民主 | る形式にしてしまっている資本主義を変革し労働者階級 的改良を意味している。共産主義者は、民主々義を単な ふみにじられていることから発生し、この要求は、政治 的に保障されている政治的同権が実際には実現されず、 建領主を打倒し、ブルジョア階級の支配をもたらした。 た。たから封建領主に対する民主々義革命の勝利は、封 あるから封建制度の根幹をゆるがす革命的な要求であっ 機奴の解放が、封建領主の経済的基礎をゆるがすもので る農奴の人身的韓属からの政治的解放を意味しており、 共廃主義者は、資本主義社会において、生産手段を独 府園主義、独占資本に対する民主々義の要求は、形式

部分的に実現するものであり、社会主義への一歩、あ 有化を実現することにより、社会主義革命の課題をも

本質があるかの如く描いている。 行をみず、あたかも職会的手続きの中に、ドイツ革命の ろが著者は、ドイツ帝国主義とドイツの分割、ソビエト | 中にすでに崩壊しており、人民民主々發革命といわれて り、権力の移行、ブルジョア権力は、帝国主義戦争の最 | 議会的手続きによる権力の移行の承認がなされたのであ 戦争でのドイツ帝国主義の敗北、帝国主義列強とソ連に が、この解釈も全く誤まっている。第二次世界帝国主義 一の平和移行と民主々義的変革が行なわれたとされている いる議会的手続きは、一種の儀式にすぎなかった。とこ シズムからの解放という歴史的条件のなかで、いわゆる よるドイツの分割、ソビエト赤原による東ドイツのファ ドイツ民主共和国における人民民主々義革命は、権力 ために、利用しなければならないことを主張する。 タリアート人民が、共産主義革命を勝ちとる力をつける

配に反対し、民主々義をかちとるための闘争が、労働 | ある独占資本と帝国主義者が、ブルショアシーの他の部 「封鍵的残存物に反対し、民主々総をかちとるため | 莪の剛争と考え、そしてこの関係を、現代の発達した資 | 本主義隔、独占資本を基礎にした帝國主義関にもあては うのである。 いるから、独占資本に対する民主々義闘争が必要だとい | めようとしている。 すなわちブルショアシーの一部分で 分、ブロレタリアート、その他の諸階層を専制支配して 一の専制と農奴制に対する政治的解放の踊いとしてブルジ ョア民主々職革命が闘われたことを専制に対する民主々 ところでもっと根本的なことであるが著者は絶対主義

れていないからである。著者は、農奴制と質労働制の相し | 経済的土台において、全く異なっていることを考慮に入 | 労働者、人民がとり結ぶ階級関係、支配関係とは、その | ョアシーのとり結ぶ階級関係、支配関係と、独占資本と は専制支配として現象し、類似した形態が存在しうるに | は、中学生にも納得しうる程度のものである。 政治的に のである。 | もかかわらず、封礁領主とプロレタリア、農奴、ブルシ だが、このアナロジーは全く誤り で あり、その理由

| 盗を一切考慮せず、同じものとしてとりあつかっている | 権力としての民主連合政府の下での徹底した民主主義の 封建主義に対する民主々義の要求は、封建領主に対す 論旨である。 (4)

命は独占資本の銀行及び企業に対する人民的統制と国|る原因であり、したがって、階級の廃止、労働省階級の | タリア独裁を勝ちとることによって、完全な民主々義を | 経済的解放をめざし、ブルショアシーを打倒し、プロレ し、そして、独占資本に対する民主々義闘争は、プロレ 実現し、共産主義社会へ進むこ と が 出来ることを主張

次のように述べている。 の「教訓」をひきだした著者は、日本の革命について、 と導こうとしている。かくて、国際階級闘争から、 解消し、プロレタリアートを小ブルジョアジーの立場へ このような相違を生みだすのである。著者は、両者を同 主義に対する民主々義と、独占資本に対する民主々義の 一視してしまった結果、共産主義革命を民主々義革命に 封建社会と資本主義社会の経済的土台の相違が、封建 種々

ての一歩あるいは数歩を意味するのである」 **発達しているところでは、このような民主々義の徹底** した実現は、レーニンのいうように社会主義にむかっ 主連合執権であり、日本のように国家独占資本主義が のような徹底した民主々義を実現するのが、人民の民 立をめざす人民の民主々義革命である。・・・・ まさにと とする広範な人民を結集し、人民の民主坚合権力の樹 命はやはり民主々義革命ではあるが、反封建ではなく の完全な、徹底した実現である。したがって、この基 の中立化、勤労人民の生活の向上という民主々義的な 党と労働者階級の指導のもとに労働者、幾民をはじめ て反帝反独占というあたらしい民主々義革命であり、 族の真の独立、人民の民主々義、諸国民の平和、日本 課題の実現であり、労働者階級の指導による民主々義 「この革命(人民の民主々義革命)がめざすのは民

徹底した実現が社会主義への一歩となる、ということが 命であり、そして人民の民主連合政府による民主主義の 国だから、日本の革命は、反帝反独占の人民民主主義革 日本は、米帝に従属している高度に発達した資本主義

関係について述べられていることが検討されねばならな が、このことの誤りはすでにくわしくふれてきた。次に この反独占人民の民主主義革命とプロレタリア独裁との 実現が社会主義に向っての一歩であるということである ここでの問題は、 反独占民主主義闘争と、 その具体的

の原則を放棄し、 純粋民主主義」の沼 クス・レーニン主義 プロ独に対するマル

らわれている。 プロレタリア独戦に対する彼らの把握に最もするどくあ 社会主義と民主主義の風雨、前帯の後着への解消は、

権力の獲得にちかづくことが出来るが、同時に、労働 によって、民主主義はもっとも完全に、もっとも徹底 「民主主義の徹底した実現によって、労働者階級は この引用文の最初の部分、民主主義は階級社会におけ

して実現される」

リア独裁の樹立によって、民主主義は最も完全に実現さ たつことは出来ない。たから、彼らは、マルクス・レー の路線は、このマルクス・レーニン主義の原則とならび らすればそもそも資木主義の下で民主主義を徹底して実 を実現できないというマルクス・レーニン主義の原則か 方で資本主義のもとで民主主義を徹底して実現すれば、 ニン主義の原則を修正し、「純粋民主主義」の立場に立 ら民主主義の徹底化を通じて社会主義革命へという彼ら づけないという締論が出てしまう。人民民主主義革命か 現することは出来ないのだから、労働者階級は権力に近 れるといっている。資本主義の下では、完全な民主主義 プロレタリア独蠍が近づくとされ、他方では、ブロレタ

促進することが出来る」 よって、階級関係をかえ、権力の獲得と経済的変革を その実現を保障する民主的政治体制をかちとることに あわせて、歴民の多数省の意志の実現のために闘い、 をにきることによってはじめて民主主義は質的変化を から、それ自体が自然成長的に質的に変化するもので ける上部構造であり、支配階級に奉仕するものである とげることが出来る、労働者階級はその他の諸闘争と もなく、社会の階級関係がかわり、労働者階級が権力 「まえにものべたように、民主主義は階級社会にお

報

変化によって、階級関係を変えると語られる。 のつながりもない、別の思想がのべられている。 ており、ここでも、後半には、前半の正しい命題とは何|の執権と名づけ、そしてこれこそがプロレタリアートの しい結論をつづけたりして、その修正をゴマ化そうとし れば、前半部分の「自然成長的には変化しない」という 化をしないと語られ、後半では、民主々義の実現、質的 る上部構造である云々という考え方は、それ自体誤まっ い命甌に誤まった結論をつづけたり、誤まった命題に正 との本来異なった二つの思想が、つながっているとす てはいない。だが、この著者の常套手段として、正し 前半では、階級関係を変えなければ民主主義は氦的変 意味している。

殿的に変化させ、それを利用して労働者階級が権力をに きらなくとも、労働者階級が努力をすれば、民主々戦を はない、というてとを述べているのであって、権力をに 階級が変らなければ、それ自身で質的に変化するもので ならない。前半部分は民主々義とは、極力を振っている 的に変化する、という風に。 の意志の実現のため「意識的に」闘えば、民主々義が質 だが、このような解釈こそ、マルクス主義の修正に他

これが彼らの主張する、プロレタリア独裁と民主主義 らである。 意識的でなければ」という意味でつかわれてはいないか は「階級関係」が変わらなければという意味であって る。なぜなら、前半部分の「自然成長的に」という言葉

マルクス主義の原則を忘れてもらうためにも好都合では dwwexがたな所有関係の形成が不可避であることに規定 とかいわれなくてすむし、また、プロレタリアートには 党から、一党独裁とか、恐怖政治とか、民主々義の否定 | る。なるほどこの脅い方はピッタリだ。自民党や、民社 一 ことによって「プロレタリアートの執権」 をう ちたて | めたらよいと思いついたのである。民主々銭を実現する る。だから著者は、この「独裁」という哲葉の使用をや ないというマルクス・レーニン主義の原則が聞こえてく は、社会主義革命であって、民主々義の実現からは生れ | ては、不協和音にきこえる。プロレタリアートの独裁と | 良主義に、ブルジョアジーの思想に純化した著者にとっ アートの独裁」をもたらすという驚い方は、ここまで改 か、と。筆者の根本思想は、結局とのことに帰着する。 これならば、万寧平和的に、流血なしに す む ではない て、階級関係を変え、労働者階級を権力へつけようと。 | 発展| する。すなわち、民主々幾を実現することによっ さて、民主々骸を実現するととによって「プロレタリ ところで民主々義をめぐるこの修正は、次のように「

| の独載という言葉を抹殺することによって、より一層改 一は、旧来、日共綱領にも書かれているプロレタリアート る。日共が試みているととは、資本主義を土台とし、ブ 良主義職会主義、合法党へ純化しようとしていることを 独裁の今日的姿だと主張していることである。このこと ルショア共和制の下での日共の政権をプロレタリアート 変更を意味し、プロレタリアートの独裁の否定を意味す | 用することを提案している著者は、資本主義的所有関係 なおしすることは、単に趴語の問題ではなく、内容上の | ている。だから、社会主義革命のために現在の法律を利 載とは異なっている。だから、「独裁」を「執権」へ手 | この永遠化の承認のうえに、民主々幾的法律もなりたっ い。これは、マルクス主義で含うプロレタリアートの独 | 主義社会を土台にし、ブルジョア国家機構を保存したま ないかと。 ま、共産党が政権につくということ以外の ことではな 続局プロレタリアートの「執権」ということは、資本 の何ものでもない。

ক ほかならぬプロレタリアートの執稿の無要な側面であ 発展させるという、この労働者階級の指導性の発揮が な、徹底した民主々義であるプロレタリア民主々義に 戦線のうえにたち、したがって多少とも制約でもつ人 ョアジーとブルジョアジーの一部までも結集した統一 展、すなわち、労働者階級と農民、その他の小ブルジ 下に、人民の民主々義革命から社会 主義 革命への発 民の民主々義を労働者階級の指導のもとに、真に完全 「マルクス・レーニン主総党と労働者階級の指導の

は、自然成長的には変化しないが、労働者階級が多数者 ことによってである。すなわち、この智葉を、民主々義 芦葉の特殊な解釈によって、前半部分の思想を修正する

| 主々磯の奥現というととでもって、一本の糸によって結 ているのである。 ばれ、これが「民主々義の道」であり日共の戦術とされ 人民民主々競革命――プロレタリア民主々茂革命が、民 かくして、このように、ブルジョア民主々義革命―― (P二O九)

(5) ロシア革命に恐怖し、

はそうすることによって、前半の正しい命題の意味を修 良的思想を前半部分とつなぐことが出来るが、しかし彼 の立場を示している。著者は「自然成長的」に対して、 命的であり、後看は改良的であって、政治的には正反対 きるという風には解釈できないからである。前者は、革

意識的」を対職することによってのみ、後半部分の改

正し、改良的思想へと変化させて し まっているのであ

して、抹殺されている。 からである」

一法律は、資本主義的所有関係を永遠化するものであり、 ア国家の粉砕ということが、導びかれる。なぜなら、ブ 一社会の実現が、資本家階級の収奪(彼らの私有財産の収 | く誤った、小ブルジョアジー特有の民主々義的願望以外 | ルジョア風寒とは、旧来の所有関係を維持するための祭 | リアートの独裁に、暴力が不可避であるのは、社会主義 であり、これは法律の階級的性格を忘れ、科学的には全 に手をふれずに社会主義革命を実現しようとしているの 力装置だからである。ところで、資本主義社会における | 奪) 一切の生産手段の共有、要するに旧来の所有関係の |を遂行できるかのように見えるのである。 だがプロレタ 資本主義社会のもとでの法律を利用して、社会主義革命 されている。ことから、ブルジョア民主々義、ブルジョ このように、「純粋民主々義」の億審者の目からは、 (P三四)

#### (6) 的背景 「執権」路線の思想

| 日共の「熱橋政治」を夢みるものでしかないことをみて | 治路線でしかないことを明らかにしてきた。 民主々義革命」が、封建領主の専制支配と帝国主義、独 |の「純粋民主々義」の見地から張づけられている「人民 |を僑都していることにあることをみてきた。をして、こ | 捨てさり、小ブルショア的幻想である「純粋民主々義」 | きた。そして、こうしたプロ独否定にいたった政治思想 相違をみることが出来す、プロレタリアートを裏切る政 上の原因は、日共が、プロレタリアートの階級的見地を レタリア独裁の否定にあり、ブルショアジーを擁立した ここでは、「純粋民主々義」に幻惑され、プロレタリ 占資本の専制支配とを同一視し、恐奴制と質労働制との われわれはすでに、日共の訳籍の変更の意義が、プロ

| ア階級とブルジョア階級の協調を脱いている日共の思想

ルクス・レーニン主義の原則的態度は、正しい資本主義

日和見主義者の本領

| ア革命に対して、恐怖のさけび声をあげている。レーニ た。このまったく正しい恩想は、ロシア革命の特殊性と く、暴力に依拠する、無制限の権力を意味する」と語っ ンは、正しくも「独裁とは、法律に依拠する のではな 大義」の見地に純化した蓄岩は、カウンキー同様、ロシ ぎて、 者階級が依拠できるような民主々義的法律がなかった 権力であることを強闘しているが、これは、まえにの べた人民が無権利状態におかれていたロシアに、労働 「ことでレーニンは、熱権が「法律に依拠しない」 このように、かってのカウンキーの「純粋民主

を加えるにとどめることにしたい。

一うブルジョア階級の昆地への転向を意味する。 | 主々義の獲得と固有化政策の導入→社会主義革命、プロ ーニン主義の階級的見地の放野、「純粋民主々総」とい におけるこうした変更は、思想上におけるマルクス・レ の利用輸へと変更することにあった。そして、政治路線 本質を、平和移行とブルジェア民主々義ブルジョア国象 一种を至上命令とするという、プロレタリアートの独裁の 不可避とし、ブルジェア民主々義、ブルジェア国家の破 レタリアートの動権、という図式へと修正した。 一化→人民主義革命、人民民主々義国家における完全な民 原則を、日共は、資本主義社会における民主々義の徹底 この修正の本質は、プロレタリア革命が、暴力革命を

| 的背景にいま少したち入った批判を加えてゆくことにし | い。日本共産党の結領においても、そしてまた、「前裔 すでに、第一衆でふれたように、民主を総に対するマ|ロレタリテ階級の経済的地位を明確に 定式 化されてい|が、民主を終罪命と社会主義革命の根本的な相違をもた ない。これらにあっては社会主義とは、生産手段の国有 あるが、次に、この思想上の動揺が批判されねばならな 上の動揺、ブルジェア思想への屈服と結合しているので ととろで、この政治路線における日和見主流が、息想

| く、綱領の原則的部分における誤りであることである。 │ 思想における現れであり、必然的な誤りである。 すなわ 一分的なものではなく、根本的な問題における誤りの政治 | 主々義に対する態度における誤りは、偶然的な、又は部 | を、修正していることによっている。 だから、日共の民 |主義批判と、階級関争に対するマルクス 主義の原則と |民主々義」の幻想のトリコとなるのも、この正しい資本 ち、この観りは、単に、眺術上の誤りにつきるのではな れることによって、はじめて、貧尾一貫した、革命的な ものになる。日本共産党が、尼主々義に対して、「純粋

恥ずべ言裏切りをやりとけたのであった。 | プロレタリアート「独裁」を「弥崙」に変更するという | 共綱領では、いまだ萌芽的であった「純粋民主々義」の 立脚し、その神術上の諸命題を擁護してゆく過程で、日 見地が全面阴花し、「民主々籤の否定が独裁だ」という ブルショアジーの主張を、何のうたがいもなく信用し、

りはてたのであった。 | のを正しく分析出来ず、ブルジョア思想の宣伝の場とな | なってしまうことは、現在の民主々義が、資本制的生産 ジョアジーの利益を嫌談するために、歴史的事実そのも | 粋民主々義| の見地から分析されることによって、ブル タリアートの見地から、学びとられるのではなく、「純 かくして、国際共産主義運動の貴重な教訓は、プロレ さて、ここでは、日共綱領の原則的部分に対する批判

| く限りにおいて、日共の緩領の原則的部分における批判 地に陥っている自共の政治理論が背景を明らかにしてゆ 諸文献を参照されたい。とこでは「純粋民主々義」の見 理論の誤りと共通しており、当而、すでに発表すみの、 一則的部分の誤りも、スターリンの資本主義批判及び哲学 | おける理論の批判をなしとけてきたが、日共の綱領の原 によって定式化された、資本主義批判と、哲学の分野に 述べられるであろう。われわれは、すでに、スターリン そのものが目的ではない。これに関しては、別の機会に

魔主義社会への革命的転化の時期における国家としての まず政治路線の問題に関しては、資本主義社会から共

| 中十一月号の論文においても、資本主義社会におけるブ | のブルショアジーに対する経済的地位のこのような和違 **農奴の領主に対する経済的地位と、プロレタリテート** 

うのである。

**『前衛』十一月母の警告は、日共織領の原則的部分に一よって解放された機奴、(彼らは政治的に解放されたこ** 一ることができることを主張しているのである。 たしかに今日のプロレタリアートは、政治的自由を管

良の試みなのである。

プロレタリアート独裁というマルクス・レーニン主義の|慘、精神的退化、政治的從嬴の根底にある」(インタナ それは、領主と選奴との人間関係において経済的に隷属 の経済的談属が、あらゆる形の隷属、あらゆる社会的悲 | 実体は「労働用具すなわち生活源泉の独占者への働く人 式に蒸礎にした階級対立であり、ブルショア階級のプロ ショナル一般規約、)ということである。 レタリア階級に対する階級支配である。この階級支配の なるほど、農奴も、領主に経済的に襟属していたが、 この根本原因とは、言うまでもなく、資本制的生産様 | れた政治的権力をその手にとりもどし、プロレタリアー

| 魔手段に附属しているわけではない。 | 奴と領主の間の人身的緑腐関係によって保持されていた| | いたのであり、そして、この農奴の土地への附属は、農 **むめて、生産手数に従属させられるが、農奴のように生** 的に従属しないでは生きてゆけない。質労働者は、時間 関係をもたない。だが、資本をふやすために働くかきり のであった。貸労紛者は、資本家との間に人身的な隷属 一されただけではなく、多くはその土地からも追放された | 支配線属関係をたち切ったとき、機奴は、領主から解放 のである。だから、民主々談革命が、この封建的人事的 において生きることをゆるされる彼らは、資本家に経済 していたのではなく、領主の所有する上地に、附属して

らす。殷奴の解放をもたらした民主々義革命は、

批判と、階級闘争に対するマルクス主義の原則から導か一化のことであり、そして、その目的は「資本主義制度に一配を磨止できず、濃奴は解放されて、プロレタリアート 支配と封建領主の専制支配とを全く同じものとみてしま レタリアートと農奴との区別がつかず、帝国主義の専制 ることを変わしている。だから、彼らにあっては、プロ と貧しい者といった常識的な見方で満足してしまってい 級とプロレタリア階級を、搾取者と被搾取者、高んだ者 る。このことは、資本主義社会における、ブルジェア階 |後的な解放を実現する」(P二一〇)という ものであ もとづくいっさいの搾取から解放し、まずしさからの母 |タリデートに対する階 級 支 配を廃止しなければならな | 革命の物質的諸条件が形成されているのである。 | ジーを収奪することによって、一切の階級支配を廃止し | になった。これに対して、社会主義革命は、ブルジアョ 上のことがらにしている根本原因、資本家階級のプロレ 一曲を勝ちとっためには、政治的自由を言葉の上の、形式 なければならず、資本主義社会には、こうした社会主義 い。この階級支配は資本制的生産様式を基礎にした階級 かくて、プロレタリアートは、真の意味での政治的自

一義と独占資本の専制に対し民主々義革命によって解放す が)の例を引いて、今日のプロレタリアートも、帝國主 | れ、資本に目にみえない糸でつながれることになるのだ | 階級の経済的解放であり、言いかえれば、資本家階級が とによって、自由な労働者となり、賃労働者へと訓練さ そして、封建領主の専制支配に対し、民主々淡革命に శ్ 一る。したがって、階級支配の廃止とは根本的には労働者 | 対立から生れており、この階級支配の実体は、生産手段 | 独占している生産手段を収奪し、 共有 に することであ を独占している資本家に対する労働者の経済的隷属にあ

一務である。このととを否定することは 出 爽ない。しか を獲得しようとする賦みは、社会革命ではなく、社会改 ばならず、この根本原因を廃止することなく政治的自由 自由を含葉の上だけにしている根本原因を廃止しなけれ だけでなく真の意味で、獲得するためには、この政治的 した階級対立の非和解性のあらわれなのである。 独占資本の専制支配は、この資本制的生産様式を基礎に し、プロレタリアートの政治的自由が、雷薬の上だけに 争は、今日のプロレタリアートにとっても、基本的な任 | 葉の上だけでしか獲得していない。だから、民主々義闘 様式を土台としていることによるのであり、帝国主義と それゆえ、今日プロレタリアートが政治的自由を音楽 一ても、労働者階級の経済的解放に成功しないならば、ブ | プロレタリアートの代表者が、国家権力を掌握したとし | する。だが、この民主々義的改良は、決して、労働者階 一て、ブルジョアジーは政治的態歩を余機なくされ、労働 | 実現するためにはその手段として帝国主義と独占資本の 家階級の階級支配を、いささかもゆるがせない。たとえ 級の経済的解放をもたらすものではなく、それゆえ資本 省に政治的諸権利を与え、社会の民主々義的改良に同意 政治的特権を破壊し、ブルジョア民主々義を粉砕しプロ アートは階級支配の廃止、経済的解放というその目的を しばりつけておくための手段である。たからプロレタリ こと、すなわち労働者を経済的に隷属させ、その地位に ルショアジーはかならず息を吹きかえし、一たんうばわ レタリアートの独裁を樹立しなければならないのである ブロレタリアートの階級闘争が 前 進 すれば、時とし 帝国主義と独占資本の専制支配とは階級的特権を守る

ある。 | 不可避とし、プロレタリアートの独裁が、不可避なので は、文字通り革命的転化であり、ブルジョア民主々義ブ であった。 |ルジ™ア議会制度の基礎の上に「政府」の座についたこ |ルジョア国家のすべての機構を粉砕することなしに、ブ とによって、とりかえしのつかない敗北をこうむったの このように、資本主義社会から共産主義社会への転化

| ワイマール共和国は、指導者選がこのプロレタリアート トに対する階級支配を維持することが出来る。ドイツの

の階級的目的を忘れ、「純粋民主々義」の見地から、ブ

一が、この盃少な計画は、決して実現されることはなく、 そこで、民有化政策を契拠しようというものである。だ らうとしているのであり、それゆえ、自共のこれらの含 アジョア関家を粉砕することなしに、これらのことを語 が、すでに明らかにして来たように、彼らは、ブルジョ 会主義の建設とか、搾取からの解放とか踏っている。だ る民主々義陽争によって、人民民主々義国家を建設し、 葉は労働者階級を欺瞞するもの以外の何ものでもない。 日本共産党は、口先では、生産手段の国有化とか、 彼らが語っていることは、帝国主義と独占資本に対す

(八面下段へつづく)

赤耳へ集中され再組続されていっ 行に全気転載されている)、進台 二二号の内容は序葉9件9・30名 判しと願されて超表された(この

第一章

連合赤軍の闘争に

以降、振野品 きわまる「自己 批 た赤斑派があの純智院一財治部件

1

一馴を貴重な楸とし国際非合法党建

とした建築武闘の破壁では断じて

北には近任がないと、脳子をのて一 は、連合赤軍の政治的・組織的版

である。

連合赤軍の銃駆戦に至る様々な数 自らの党建設そのものを総括し、 の政治的、組織的敗北について、 赤郷結成を担った党派として、そ

線の破崩であり、我々が強闘して

がわからない獄中に於て、手紙で

要するに、手紙でしか外の事情

「・・・・これは政治抜き 軍事路

という態度である。

一般成する削速で殺すとは何という

のにも責任がないと考える。これ

別の覚証だったのである。さんざ

んペテンにかけやがって!我々に

| すぎた。奚寅的には半年も前から | の指導部を基本的に<equation-block>類していた ┃ 隠である。むしろ我々の缺別は巡┃ついては十分に知っていたが、外

階級・勘労大衆に」責任ではたし

ているかに見える。だがはたして し党の「義務を遂行」し「自分の を公然と認め」「真而目に」総括 とく、「自分のおかしたあやまり **号)という箟音は、彼らがレーニ** の組織としての総括と「革命左派

ンを引用し21号に於て主張するご

ているのであり、これは当然の処一

成されたのであって、その欠陥に 「行為」と「独断な行」によって結 |の人達||による「政治無視の反覚

これをやれば開発すると遺告をし でしかない。我々は既に何回も、 も何でもなく、単なる"進命派"

は健在であります」 (序取9号P トにとって、まさに日共革命左派 を聞かされているゴロレタリアー さに放営を並べたてるという前代

のは、我々にとっては。問志。で

批判」を無視した「一部の事命派

「再三、再四の脱党通告を含めた

未聞の戦闘寛昌(序覧9号撃順) 場した上、政治部級の忠璧の厳し 遵循
選が合法大衆集会に公
公
公
と
3 し、あげくのはてにその中心的指 組織的に破産し、大衆運動に迎合 を重ね、蛇的解体へとつ言道み、 判』と「総括」の秩水の中で縄乱

新党。集団は無政府主義者である | クス・レーニン主義者であり、"

渡辺滑は、連合赤草は「川鳥原 … (序章9号2月)

\*新党。結成を推進し参加したも 同志を先頭とした獄中一門」の、

全く別の党派である!我々はマル | た "新党=統一赤軍" は我々とは

立していたのが事業なのである… くに)、基本路線において全く対 旧指導部が二・一七箇争以来(と

人民遊野戦争を放棄して結成され

「反米壁砌路線、毛沢東思想、|

「……川島間恵と革命左派一部

総括における態度 渡辺君の連合赤軍

股を一歩前進させ、革命戦争を第一ない……」(同日81)

# 連合赤軍に対する 日共革命左派の態度

の音像は全く子組も出班なかった

という発明に、度辺省の組織的資

でも、実践的に敵対し、破壊して 一論的・思想的に厳密しているもの

# 渡辺正則君の総括批 判 200000

路線が「揖朋文、統智哉と目し武 二一号」に正式な党的総括と再独 月三一日に、ビラによる声明文を | て「日共革命左派は、党組織に対 に五月一日付の後関紙「解放の底 略を踏んで前道せより」と望する 獄中メンバーの連名で提出した。 (5・20発行) に発表された。 更 しばらく沈黙していたが、『血の 連合赤軍の銃撃眼―崩消につい | 括する場合唯一の驀準となるであ | 紹介した「血の跡を踏立て前道せ | つらぬかれているからである。 する環壁に関しては、赤斑派より さて、我々は赤親4号紙上に於

々は検討していくことにしょう。 一線空強割し、その復権による党の 再建を上版するのを見る時、われ

護辺正則着の総括論文が序至8号 | 弥寥反対」をめぐっての党内闘争 | は渡辺正則對の代表的な二つの論 | さらに序章論文に於ける彼の総括 |ベテンには、この劉争を党的に総一(情況2月長7・138階)と先に|に於ける覚荐建路線の基本として | と指導部の鎌中指導部に対する 7 | 文「建軍遊覧職と反米受国路線」 | らが今日明らかにしている「純一 | このことで隣まえここでは、我々 | 定式化として最も整理されており 「もすぐれたものをもっている。彼 | 物の視点を提出しておいた。 ないかと考えている」と述べ、批 関争、赤草派との党派闘争を背母 | 魔として閻趣をとらえるべきでは | 結成をめぐる猴外指導部との覧門

限させるものであるかどうかを我 | ろう。ただ彼らか「反米要商に略 | より」を中心に批判を展開してい

に審かれており、反米要国略線の

と再幾方針は「解放の旗二一号」

われれば、「反米渓国」路線の被しりあげるのは情況施文は連合赤軍 我々がこの二つの論文を特にと

組織的欠陥の結果党内闘争の組織 覚規律として具体化されていない | 指導の中央抵権制、党に対する費 | がって、間志間で**疑心**略鬼がきわ 組織的責任を放棄するものである 指導部に転嫁することは、自らの を総括せずに、全ての責任を獄外 化に失敗したのである。このこと 命党の組織原則として中央集権主 争の組織の仕方の問題であり、覚 闘争の問題は、非合法党の第内闘 である。獄丹と獄中の通信、覚内 任の問題を許すもの「は断じてな」こなければ、絶対に敵の手先とし 任の分敵化、党内情報の組織化が一めておこりやすい状態になる。前 義の思想を勝ちとることが出来す である。日共革命左派は非合法華|敵の思想に対してもつ憎悪の感情| 内闘争に対する党員の責任の問題 い。こういう弁明こそ「ベテン」

2 粛清問題

は疑いもなく革命烈士である」 ある。だから犠牲になった同志適 は你大なものであるということで 的としていたのであり、この目的 た二十九名は、銃の武装闘争を目 ないのは"機名アジト』に結集し (影響8世 276) 「何よりもおさえなければなら

る。これは全ての間志が一致でき |「リンチ殺人」は魔大な誤りであ 一治的自覚を高めることによって解 ると考える。 」(同) 方法はない。したがって、今回の 決すべ密なのであり、これ以外の 教育によって、脱得によって、政 理することは絶対反対する。・・・・ のような形(リンチ、処刑)で処 たのだ。私は人民内部の矛盾をこ 人民内部の矛盾は、政治、思想、

している。現在の日本において、 革命か反革命かの実践的分岐点は一 体制』においては、敵味方の問題 は殺すか殺されるかの問題と直結

\$3.0° を正しく総括することは不可能で 出来ないし自らの覚建設そのもの の組織的実践から何も学ぶことが 強調しようとも、連合赤軍の闘争 いる限り、いくら政治の素媒性を がこのような組織的態度をとって インペイするものである。渡辺鶯 「……敵対矛盾ではなかったこ

|ので、「今回の事態を招いたこと | 腕り」という縄原から全てを見、 について、川島門志にも歌中のも、大きなの形鬼が原因という絵括 することは、日共和命左派を二・ 切の実践を清算し「半年も前から **をしながらも納局、適合赤軍の一** 一ンベーンに限を奪われるあまり、 | る「リンチ殺人害件」の暴露キャ 別の覚派だったのである」と主張 「今回の"リンチ殺人』は重大な

きた、政治を第一とする、蛇を軸一ペテンにかけられていた淡辺君に一ことであり、留飲主義、復言主義 一七統奪取闘争以前に圓帰させる

対する渡辺君の総括 北に於ける日共革命定派の責任を 否定し、連合赤葉の結成とその敗 的帰納としてあったという事実を 合赤軍の政治的・組織路線の必然 あるが、このような態度こそ、速

| 渡辺増は、ブルジョアジーによ | 作風上の問題は、政治教育、思想

この問題は人民内部の矛盾であっ しっかり一致していたはずである 武装をかちとるという大方向では とは大体はっきりしている。銃の

「きわめて過酷なる "銃の地下

歌外指導部の手紙によって「ベー駐車武装商争に対して、突撃的に

について 想と生きた反米婆國路線に基づき 国主流を打ち破るため、毛沢東思 約=規律の獲得として、即ち「史 銃艦戦の開始へ向けての組織的団 ることによって、内部粛清問題が 一うに個々人の批判をおこなってい 合赤軍を備々の戦士達の築合と見 ることである。これは渡辺雪が迷 を「一部革命派の人選」というふ| 上遊も凶悪な米帝国主義と日本軍 回復しようとし、他方では指導部 かわることが出来るということを

としているのである。 とり、結局は銃撃戦と強済を代賞 って、渡辺君は個人主義的態度を の結果として総括しないことによ | 視している。 爾清問題を組織実践 P77)の開始へ向けて「軍内部の 的になされたということを全く無 整風を聞いとる」ものとして組織 第二に、人民内部の矛盾の処理 |主義者としての 主体的 飛 臘=成 | 前途の順序で明らかにされる) 、 | 原因がある。日共革命左派、赤軍 | 縁の内容上の誤りの帰結であり、 組織としてではなく、個々人とし 長」においたのである。(つまり 媒介を通じた「個々の戦士の共産」 で組織的な自己批判と相互批判の ることを問われ、その思想的基礎 よって党組織の資を飛躍的に高め 派の両者とも、鉄砲を扱うことに の主張に思想的に屈服していった

されたのである。このような統一 | の処理として毛沢東によって主張 党・軍・人民大衆間の政治的関係 一統一戦線内部の諸別級・諸階層、 政府の国内政策として、あるいは 層の処理とは権力を察取した革命

かればならない。もっとも私など | 忘れた時、感管な"内ゲバ"が発 | 内部の整風 | として(もっぷるん いう激しいものがある。....した 一常融と思いこんでいたのだが。 れはどうしてもはっきりさせてお 配の原則を忘れ、敵味方の区別を は、……"殺すか殺されるか。と | "統の質』の地下体制では、敵や 生するのである」(同P83) て扱うべきではないのである。こ

77) と暫いながら、一方では粛清 人の資質の問題に解消するのはマー いのは、第一に、渡辺澄が「個々 て個人的に評価を与えその名誉を された人々を「革命烈士」選さし ルクス主義ではない」(序章8P とこで指摘されなければならな してに日共革命左派が、「紫野同 人が銃を発展させることで自分も 志は際官から総統を奪取しようと 我々は統が人を変えるのではなく 取しようとしたのではなかった。 したことは単に武器としての銃撃

|命左派アピール、もっぷるNO-|のとして "銃" を軸とする遊隊| 一般」(71・12・18集会への日共革 **艘略戦術を、一つ一つ確立するも** 人民戦争の勝利に向け、遊撃戦争 る統へ発展させることで団締の強 間に成長するという赤軍派中央軍 とによって「「死」を克服した人 う偶々人が「共産主義化」すると という主張をするに至り、銃を扱 と即ち人の要素第一を理解する」 くこと」「殺すことが殺されるこ 化、統一を具体的に物質化してい 自らの死をかけて教えたのであり

| であるが、そもそも人民内部の矛 風が、あるべき共産主義省の像へ ┃ 項目に関して、次のような規定を ったところに漏消の根本原因があ ことに発展していかざるをえなか|帝国主義に支配されている軍団主| 組織規律をつくりあげようとする 自らを近づけていくことによって て、この自己批判―相互批判の作

行なっている。

A、日本社会の性質の分析-米

ったとわれわれは考えている。 めるという誤りは、急進民主々義 的窓志統一を「共産主義化」に求 このような革命党に於ける政治 懿田

する覚建設」(解放の旗18分)へ | た本格的革命軍」、『鉄砲を指導 | マルクス主義の原則の復権と組織 |命左派は、2・17闘争以降、一行 のである。 | まで以上の間い団結| を「一人一 砲を指導する党」の立脚点= 「今 の飛躍を唱えた。そしてこの「鉄 動隊的策隊」から「鉄砲を軸とし 徘徊趣に於ける憲大な誤りがある 連合赤承結成へと向った日共第 我とによって解決していった。即 観者階級の経済的解放ということ に対する中央集権主義の思想の実

| 命戦争を励おうとする軍事組織を

| 建設したが故に必然的に発生した |

証明していることに気がつかない 建設出来ないことを邪実によって という人民民主々淡革命路線では

| の適面する課題とされたのである 2、 P75) 、 闘いとることが組織 党の精力的な指導の下に学び、軍 の"党が鉄砲を指揮する』ことを こなす政治思想を身につけるため 人の兵士が"銃"を統帥し、使い に党の政治的団結の基礎を確立し

二 にかけられていたため今間 | 敵対シ峻遠さるか音かである。理 | 雄とするととに自我革命定派の幾 | を謀撃組織を建設した時、軍人の | けるあるべき人間関係を過渡の組 | 心幡鬼が言わめておとりずい状 |の党化||の問題)。われわれはこ||していったのである。 | 共産主義化として問題を立てるこ | 織規律にあてはめようとする考え | 態 | という実存主義的な解釈をす ういった問題を階級闘争に対する (いわゆる 「党の軍人化、軍の中 とにもなったということである。 | を「完=米来社会論」「党=共産 | ることにより、「夜惨な内ゲバ」 | 命左派が民主々姦革命としての革 | 武装闘争は闘い得ず、軍事組織は | 主義の母胎論] として批判し克服 | 発生の根拠を理解したつもりでい しかしながら機辺岩は、日共革

るが、これこそ「反米愛国」路線

| ちプロレタリア革命の大目的=労 | 党内共産主義という考えと、その | 党の組織規律を中央爆権主義を原|制」下で発生する「殺すか殺され |主義=爾潛を、「銃の質の地下体 | 結果である規律問題に於ける個人

のの誤りを明らかにしてゆこう。

次に、「反米愛国路線」そのも

則とすることで共産主義社会にお一るか」の反映による「同志面で疑

第二章 「反米愛国」路線の 批判

## 1 「反米愛国」路線の

(以上もっぷるNO-P67-7) | 連合赤軍の敗北を「政治の欠答」 ・・・・」「奪取された銃をせん滅す|うとしている。そればかりか彼は ではない。 闘争の経験を正しく総括するもの を主張すること自体、連合赤軍の に求め、「反米愛国路線」の確立 と主張している。 さは決定的重要性をもっている」 正しくも「思想、政治路線の正し 保存」の遊撃戦の戦術を擁護しよ しかし、すでにみてきたように | 主々発革命 渡辺雪は、「敷の消滅、味方の|命と民主々義革命 幾萬命 一労闘者階級は指導階級) **暗殺、中小ブルジョア階級(勿論** | 周盟中心、知識人、小ブルジョア D、日本革命の原動力――労農 F、日本革命の前途——社会主

ここで、「反米愛国路線」の内容 上の駅りを明らかにしてゆこう。 渡辺岩は、毛沢東の政治路線に このことは、結局、思想政治路 る。われわれはすでに、日共の、 一で、日共に対する批判が、日共革 |においては、彼らの打倒対象であ しては、一面輪文でふれているの る「宮本修正主義派」と同じであ 人民民主々銭革命路線の誤りに関一する最大の連帯であると考えてい この定式は、 このような枠組み

న్

命左派にも妥当する点に関しては

E 日本革命の性質 ---人民民 | 縁の枠内にありながらも遊撃戦を にすることは、彼らの遊撃戦に対 左派の諸君たちへの批判を明らか いえないこと、失敗せさるをえな は、人民民主々総路線の下では瞬 だが、われわれは、今日の遊撃戦 かかけながらも遊撃戦を否定する る。われわれは、社会主義革命を げ、遊撃戦を闘っていることであ いことを確信しており、日共革命 闘った人々をより多く支持する。 人々よりも、人民民主々義革命路 と異なる点は、毛沢東思想をかか 帰しながらも、日共左派が、日共 ところで、路線上、同じ棒組に

## 日共革命左派の遊撃 戦戦術の基磯

命の対象→任務→原動力→性質→

対する観点を、「社会の性質→革

2

にまとめ、そして、この観点を、 (情況二月号P九二) というよう

日本革命の問題に応用し、各々の一においては一致しつつも、民主連一即人民民主々義革命である、とは よって、この疑問に明解に答えて 一点として次の事柄をあげることに い抜いた根拠はどこにあるか。 合政府に重点をおき、職会主義に 毛沢東から学ばなければならない に敵対し、遊弊戦を断閊として閥 る。……「革命の性質を決定する 純化しつつある日共に対し、これ 白共左派が、日共の路線と大学 | るいは民主々義をかちとる革命が 一般辺君は、毛沢東思想を整理し | の双方である」。これこそマルク | 務であり、後者は革命の性質であ | いえないこと。前者は、革命の任 ス・レーニン主義の観点である。 命の性質」を規定するのは「革命 『革命の対象』であり、一方『革 『革命の任務』を規定するのは、 力は、主要な敵と主要な革命勢力

B、日本革命の対象――アメリ

| 戦線政策を党内闘争の組織化の族 | の延長上に革命戦争を戦おうとす | C、日本革命の任務——民族革 カ帝国主義・日本軍国主義(主要 でない敵=たとえばソ連社会帝国

「民族解放をかちとる革命、あし

の支配と、一部独占ブルショアジ

隸属、政治的從属、社会的悲慘、

を打倒する人民民主々義革命が

ことが出来る、と主張している。

の敵と革命勢力」である。」(P 勢力の双方」の分析から決定する一きない。 性質をあられす簡葉である、とさ は、革命の任務ではなく、革命の れているが、人民民主々議革命と そして、人民民主々磯革命とい | ここから、「反米愛菌」 建軍遊撃 |正しい方向への第一歩であるにす | いうことに従った渡辺君の分析は | かし革命の性質を敵と主要な革命 | 正しい内容をふくんでいるが、し 一う彼らの戦術が導かれているので ある。 人民の闘いに学ぶという健康ない 礁による人民民主々 務の革命とい たしかに、との主張の中には、

### 3 る混乱した思想 社会主義革命に対す

にするだけではなく、正しい資本 級闘争の個々のあらわれを明らか [しいが、このような考え方は誤ま を正しく分析するには、単に、階 「敵と主要な革命勢力の双方」|命の後に「資本主義一般と私有財 っている。 | 産一般を打倒する] ということら

」とすることによって、単なる経 本主義一般、私有財産一般の打倒 が渡辺君は、社会主義革命を「資 | らないという意味である。ところ レタリア独裁を樹立しなければな めに、プロレタリア階級は、プロ ければならないのであり、そのた 奪し、生産手段を共同所有にしな なければならず、資本家階級を収 をなくすためには、階級をなくさ

のことを根底にしたあらゆる形の一るのではないのだ、と。 手段を独占している資本家に、労 ることが出来ないのである。 民主々義革命の路線を批判すると しか把握していないが故に、人民 | なる経済改革にしてしまっている | 主義の要素は多く含んでいるが未 働者が経済的に隷属しており、こ とが出来ず、日共路線の枠から出 逆に、社会主義を経済改革として一だ社会主義革命ではなく、人民民 に、その結果、社会主義革命を単 | 々義革命の正当性を強調したため 人民の政治革命としての人民民主 階級の廃止ということは、生産 主々義革命である」(P九四) ジョアシーはみとめる、われわれ は社会主義革命をやろうとしてい

**戦革命と社会主義革命の比較を行** 然資本主義一般、私有財産一般は 打倒の対象となる。」(P九二) ン)、社会主義革命であれば、当 級をなくすことである』(レーニ 々義革命だ、としている最大のよ いう点である。『社会主義とは階 殷」に向けられるのではない、と から、「革命のほこ先」が「資本 りどころは、敵と革命勢力の分析 ここで、 渡辺碧は、 人民民主々 を社会主義革命でなく、人民民主

々義革命では、そうはならないと

「毛沢東同志が中国革命の性質 会主義革命?

主義一般と資 本主 養私有財産――済改革にしてしまっている。

渡辺君は、独占資本に対する、

する考え方の誤りを四点にわたっ ととでは、渡辺君の社会主義に対 正しく提起することが必要である 資本主義一般

ーニンの正しい言葉を社会主義薬 は全く正しい。渡辺霑は、このレ レーニンの言葉は、資本主義一般 命は「資本主義一般、私有財産」 とである」というレーニンの営業 「社会主義とは階級をなくする くはずである。 一なしにしているその誤りにも気づ В

ジョアシーの 社会主義革命 財産の収奪か とは中小ブル

| てとから、当面の日本革命は社会 の下、所有権を認められる。この 協力する中小企業家は一定の制限 民の土地・財産は断乎守られるし 象とせず、またすることはできな 一般一般、私有財産一般を革命の対 面の革命においては、未だ資本主 く、主要な革命勢力に中機層や中 い。革命戦争に参加し協力する機 層ブルジョア階級も含むため、当 あってブルジョアジー一般ではな 「われわれの敵が米日反動派で

日反動派は打倒するが、他のブル |ったつもりで、このように、おど | ば、ロシア革命は社会主義革命で そかに寛善する。われわれは、米 渡辺君は、革命政府の首班にな

たが、中農 (これは、階級とし) | する毛沢東が、主観主義としてい ないこと」(P九五) 命であること、そうならざるをえ 構成されるなら、人民民主々務革 社会主義革命、プロレタリア階級 一みで構成されるならプロレタリア こういう見解は、渡辺君の尊敬 **農民階級、**小ブルジョア階級から (および半プロレタリア階級)の 「統一戦線がプロレタリア階級 れるか?

ます必要で、この人民民主々義革「は、労働者をこの経済的隷属条件」ないような社会主義革命はありえ があること、そして、資本家階級 ては、ブルジョア階級)を保護し 民階級」なるものは、いまや存在 らい農民の階級分化は進行し「農 ということか。段奴制度の廃止い にか。段業に従事している労働者 主張すべきであった。 はなかったととを輸配してから、 | この主張が正しいと考えるのなら ましめた見解である、渡辺君は、 また、「農民階級」とは一体な

|におしとどめるために自からの国 | ないだろう。渡辺君の説によれば | よってはじめて正しく把握すると 階級の実体を明らかにすることに という、資本主義社会における而 | 革命になってしまう。ロシア革命 |家権力を道具として利用している | ロシア10月革命も、人民民主々義 一っていることを理解することが出 |を思いだしてしまう。 パリ・コン | ミューンの戦士たちは、自分のや 年のパリコンミューンの戦士たち におけるネップは一体何なのか? 渡辺君の脱をきけば、一八七一 をさすのか? | 秘] とは、一体、どの階級のこと としての機民、出かせきの半プロ

まれてしまうことになると共に、 | 特有の領域を作って論じている事 ことによって、社会主義革命を台 柄は、大むね、社会主義革命に含 であるとと、という階級闘争に対 | 手段であること、 国家権力の獲得 る思想を確立するならば、渡辺君 考え方を明らかにすることができ 則、社会主義革命に対する正しい するマルクス・レーニン主義の原 はプロレタリアートにとって義務 解放が大目的であり、政治闘争は しい把握から労働者階級の経済的 とができる。との階級に対する正 「人民民主々義革命」を強調する この正しい社会主義革命に対す 「人民民主々義革命」という | なしには、ブルジョア階級の支配 |社会主義革命とは夢にすぎないが ないであろう。渡辺君にとっては | 北の道しかないことを示した。ま 来ず、民主々務的変革と社会主義 をくつがえすことは出来ないので は、社会主義革命を実現すること | 日本のプロレタリアートにとって 半年も、もちとたえることは出来 | 変革をおし進めることなしには敗| | コンミューンですら、社会主義的 おし進めることが出来なければ、 的変革とを混問した。歴史はパリ して、日本におけるプロレタリア トの権力は、社会主義的変革を に、「有効」な理論である。 D

の補完物でしかないのである。 割は、日共人民民主々磯革命路線 語にしてしまっている渡辺君の役 あり、それゆえ、社会主義を夢物

C 社会主義革命 のみで構成さ における統 レタリア階級 戦線は、プロ

民主々義革命が社会主義革命に転 敗北し、社会主義が全世界的に勝 また「現代は帝屠主義が全面的に 没収して国営経済をうちたて、農 利する時代』であり、日本の人民 合は圧倒的であり指導的である。 的にも社会主義的要素が占める割 経済をうちたてるのであり、経済 民、小生産者のなかには協同組合 しっかりと把握され、独占資本を 術党の指導権は確立され、軍隊は

々義革命が社会主義革命に転化す あり、そして、「日本の人民民主 辺君は、ここで急に、人民民主々 革命」の夢物語にしてしまった渡 銭革命は「本質的には」プロ独で 化することは明らか」 社会主義革命を「純粋社会主義 (P九五)

一が、何のために、社会主義革命と 人民民主々義革命とを区別したの 「る」と主張する。ここで、 渡辺君

が明確になる。つまり先に指摘し

現在のイギリス、フランスがそれ

級) がいるのであって、「農民階 ている借地農業者(ブルショア階 大土地所有者、賃労働者をやとっ る小ブルショアとしての自営農民 レタリア機民、土地を所有してい 一うととである。

いない「純粋資本主義社会」のみ は、資本家と地主と貿労働者しか りえない。渡辺君の社会主義革命 い以上「純粋社会主義革命」もあ 粋社会主義革命」を考えている。 ことと同義である。確辺君は「純 主義革命はありえないと主張する **萩革命だと主張することは、社会** る統一戦線による革命が、社会主 階級と半プロレタリア階級から成 「純粋資本主義社会」がありえな いずれにしても、プロレタリア ロレタリアートの独裁はマルクス 改革に歪少化した結果、プロレタ のなにものでもありえない」(マ |ロレタリアートの革命的独裁以外 | ] の革命的転化の時期がある。 この からの引用文にあるように社会主 主義の原則をも修正している。プ リアートの独裁に対するマルクス ルクス、『ゴーダ網領批判』) | 期がある。 この時期の國家は、プ 一時期に照応してまた政治上の過渡 とのあいだには、前者から後者へ

独か? 的には」プロ 革命は「本質 人民民主主義

いて、プロレタリア階級とその前 主々義、プロレタリア独戦である 独裁は本質的にはプロレタリア民 「人民民主々義革命の段階にお - とれはまったくその運り」 人民民主々義、人民民主々義 なる

| 截の原則を修正せざるをえないの | は、民族革命が任務となり、そし 君の本音ではないのだろうが、し なく、プロレタリアートの独裁が | 果ブルショア国家を粉砕すること| らば、プロ独に対するマルクス主 かし、渡辺君の主張を純化するな 成立するという見解にたどりつい てしまう。このような主張は夜辺 会主義的変革なしに、またその結 してしまっている。その結果、社 々義革命と社会主義革命とを区別

渡辺流の修正か。 主義の修正、プロ独の修正の道か する修正に陥るか。日共流の社会 服するか、それとも、プロ独に対 つに一つである。日共の路線に屈 戦革命への多様な道論、あの日共
さもなければ、いわゆる社会主 の職会主義路線へ陥ってしまう。 である。

験文でふれられているので 命への「転化」論の批判は、一面 人民民主々義革命の社会主義革 چ

渡辺君のように問題をたてれば二 | 帝が日本をすべての面で圧倒的に の主張である。 魏革命になるというのが、 渡辺君 | 支配している」から、人民民主々 合があるが、日本の場合は、「米 渡辺君は、人民民主々義革命か

ても人民民主々義革命とはならず のように脱明している。 社会主義革命となる場合もある。 社会主義革命かのわかれ道を、次 「一方、民族解放の任務があっ

| 主々義独裁への下へのしのびこみ え、「社会主義的要素」の人民民 | たように、渡辺君は、社会主義族 「転化」として理解しているとい 命を、単なる経済改革としてとら 4

は」プロ独であると主張する。で 人民民主々義革命は、「本質的に ある。にもかかわらず、渡辺君は 心事の時期における国家形態で 渡辺君は、社会主義革命を経済 「資本主義社会と共産主義社会 であることを明らかにしてゆこう が、渡辺君にとって根本的な欠陥 うからである。 渡辺君は、日本社会の分析と、

社会主義革命の一つの道であると 主張する日共の路線と同じことに 渡辺君は、人民民主々義革命は、 クス主義の原則を忘れないならば あるならば、プロ独に対するマル

民に対し独裁を行っているのはこ | 独占ブルジョア階級。日本の権力 一カの独占ブルショア階級と日本の 日本をすべての面で圧倒的に支配 の二つ」(P九三) を独占し、民主々義を独占し、人 している。....すなわち、アメリ 売面外交。 以上より、どう考えても米帝は

なる場合と社会主義革命となる場 度によって、人民民主々義革命と て、その外頭帝国主義の支配の程 外国帝国主義の支配がある国で | 社会主義革命との分かれ道にする 分析は、日本をはじめとする帝国 るという主張につきることになる | 定する一一定の条件」に適してい ことは誤まっている。 渡辺君が立脚している毛沢東の

国主義との问盟として、その支配 建的地主及び貿升資本家と外国帝 | 明らかにしている。とこでは、封 帝国主義と半植民地・半封建の社 国の帝国主義列強に対する隷属を 会覧係として、その経済的土台を 主義列強の中国に対する支配、中 五年サンフランシスコ講和条約 らの力量の役活を準備し、一九五 | 世界大戦後の米軍の占領下で自か

問題につい 米帝の支配の程 て 度

一君の最も得意とする分野の批判に 一ているが、次にわれわれは、渡辺 会主義革命における誤まった態度 はいり、とこでの批判を通して社 |あり、先の話だから、現在の党派 | 本革命の前途| と考えているので | ではなく、反独占資本主義のプロ 渡辺君は、社会主義革命を、「日 は思われないであろう。なぜなら一要なものとはなっておらず、革命 っては、あまり核心を得た批判と きたが、この批判は、彼自身にと 性の根幹として考えていないだろ 主義革命に対する思想を批判して このこと自体、根本的に誤まっ 先にわれわれは、 渡辺君の社会 | である。 英・仏は明らかに米帝の の条件」になっている。……米帝 米帝国主義の支配がまさに「一定 である。・・・・日本革命の場合は、 「一定の条件」になっていないの

明らかに日本に経済的権益をもっ うに定式化している。 ている。外交面、文化面はいうま | えば人民民主々義的統一戦線にな ていることを示している。米帝は 経済の命脈を盛っており、支配し 「これらの事実は、米帝が日本

ところが、渡辺君は、人民民主 でもないであろう——対米追従、 るのである。 主義革命かの分かれ道にされてい るかが、人民民主々職革命か社会

| 革命勢力の巾を広げるかどうかと | 性質を決定することは誤りであり 木の人民民主々数革命の性質を決 結局のところ、米帝の支配が、日 いう問題は、戦術上の問題であっ て、これを、人民民主々義革命と であるから、渡辺君の論拠は、 に、統一戦線の性格から、革命の ところで、すでにみてきたよう

の経済的、軍事的優位に目をうば

渡辺君は日米同盟における米寮

の軍事力を利用して、今日の地位 をきすいてきたのであって、 |本の独占ブルジョアジーは、米帝 | アジーの主権にほかならない、日 における主権とは、独占ブルショ 独占資本を基礎にした帝國主義国 | ての半植民地図としての中国より いる。だが、発達した資本主義国 主権が犯されている、と主張して も今日の日本の方が米帝によって を無視している。その結果、かっ われ、その土台にある経済的関係 显

の 合にとらえ、軍国主義の経済的土 ところが、渡辺君の場合は、米

米同盟下で、帝国主義的発展を遂 帝が経済的、軍事的便位にある日 及び第一次安保条約締結以降、米

選した資本主義圏においても主権 げてきたのである。度辺君は、発

すなわち、米帝の支配は、革命勢 レタリア統一戦線だからである。 勢力は人民民主々義的な統一戦線 らない。なぜなら米帝の支配が主 力の幅を広げるまでに至っていず 一定程度の支配をうけている。… …しかし人民民主々義革命とはな | 半植民地の中囲よりも、すっと日 るのである。 指揮権を根拠にして、「かっての 台を一切見ようとはしない。 本人民の主権は侵犯されている」 地の存在と自術隊に対する米軍の 日本社会は、発達した資本主義 (P九三) ということが主張され とこから、日本における米電器

を忘れている。

渡辺君は、「日本民族は米帝に

占ブルジョアジーの手にあること は人民の下にあるのではなく、

| 日本革命の対象について、次のよ | り、米帝←プロ・農・小ブル・中 るか、プロレタリア統一戦線にな るかどうか」ということ、逆に営 の程度が、「革命勢力の幅を広げ」 ブルの矛盾は非常に鋭い。」 は米符に支配され、収奪されてお も段違いのものである。日本民族 | 植民地支配は封建的地主と同盟し もとより西独に対する米の変配と |の支配は圧倒的である。 英・仏は このように、結局、米帝の支配 (Pカ六ー九七) の自由な発展をおしとどめたから | ショアジーが参加したのは、日帝 一手に振るために封建制度を温存 半封建社会における経済的利権を の支配が、中国における資本主義 | 国における新民主々義革命にブル 半楠民地、半封建社会としての中 一帝の日帝に対する軍事的優位は、 発展と階級闘争に敵対してきた。 うえに成立しているのである。 日・米両帝国主義の政治的同盟の の支配する帝国主義国である。米 し、その社会における資本主義の 住友、安田を中心とする独占資本 を土台にしており、三菱、三井、 半封雄社会に対する帝国主義の

一の日本帝国主義打倒でなくてはな かつ、自国帝国主義の打倒として

として、行われなければならず、 国際反革命軍事体系に対する闘い く、米帝を中心とする帝国主義の | それは「反米愛国」としてではな 米帝闘争の重要性も承認するが、 | 的、軍事的優位を認め、かつ、反

免罪することを意味する。 し、日本の独占ブルショアシーを とのことは、日本資本主義を美化 主義総体が米帝国主義の支配の下 にあるかの如く主張しているが、 主張することによって、日本資本 支配され、収奪されており、」と

我々は米帝の日帝に対する経済

相互に関争している。 るが)経済的には同等の資格で、 方が強い経済的力量をそなえてい 争相手として、(もちろん米帝の とは出来ない。米帝は、日帝の競 の発展それ自体をおしとどめるこ 今日、米帝は、日本の資本主義

らないのである。

これらに関しては、 資料にもとす 敗北でもあったのである(なお、 合赤軍の敗北は、この政治路線の の誤まりの根拠となっており、連 共革命左派のこうした政治路線上 級に対する誤まった考え方が、日 いた反論を準備する予定である) िだ、訳まった資本主義批判と、階 社会主義革命に対する誤った思

である。

読 論 文> <必

■革命戦争派の綱領の原則問題 榎 原 均 (序章九号)

■革命戦争勝利の道とは何か

三 郎 (査証No.5)

と開き渡らざるを得ません。」で 革命家なんでその名に価するか、 しては、南域の凹めきをもたない 始め、一「攻撃型階級随争論」を ないと思います。」という所から てしまうことだけは避ければなら

『魔媒的数象』だという批判に対

烈階級闘争論」ま、斉定、清算し

直すべきは

型階級闘

終っている。このように開き直ら | は「三期輪」――「一向過煙期世」「大歴史―中歴史―小歴史」の区 | における済本家と労働者の経済的 | をはたすために、権力獲得のため |

見えるが、関争戦術、革命の型を一つけ「ブルショアシーの制約ープ

界論」によって完服されたように

八派諸派と四確な一線を引いた上

我々は邪報二四以來、革命戦争

新谷滑、問題をあいまいに語っ一革命の不統一、そこから生まれる|

|階級危機、階級闘争の攻撃的性格

プロレタリアートの政治的力関係

形成として位置付けているのであ 政治的意義で日和見主義の温床の

| 地間家輪を総括し、根拠地国家論 は一向過渡期世界論における根拠 ばならない根拠があるのだ。我々 我々が、「原則」を強鷴しなけれ 一服されていないのであり、ことに 過程論の急進民主々戦的弱点は克 うに何等攻撃型階級闘争論、政治 いる部分がいることからわかるよ て武嶷闘争や革命戦争を云々して

的歌馴としてなされねばならぬこ をどう把握するかではなく、その

ことを基礎とした階級関争の歴史 二に政党の世界認識は、階級関係 生産様式の分析から唯一明らかに

○社能にした常国主義の優略と反一とを怠り、第三に階級闘争の歴史

ことを物語っているのである。 ス主義の原則の晃地に立ち得ない ない限り階級闘争に対するマルク が「攻撃型階級闘争論」を消算し 疎外革命騰として「共産主義化」 学」風にも発展させられ、一種の 繋的人間観」などと「能動性の哲 攻撃型階級闘争論は、一方で「攻 のである。そして、更に赤珮派の 政治権力の獲得を目的化してきた いう義務とを明確に把握できず、 放という目的と政治権力の獲得と 政治的力関係を階級関係とすりか 亦軍派は、階級闘争のあらわれ、

一みでなく、質労動制度そのものの

一獄外の赤軍派に見られることき日 日和見主義の温床を形成するので |のであって、我々がそうであるの 解していることにもとずいている に一文献解釈主義者よろしく」理 復権を原則一般としてしか、考え

| から生する諸結果に対して闘うの | はなく、 原則を理解しないことが

ブロレタリアートは質労働制度

なりかねない。 一という陥穽にど 和見定義を不断に生み出す温床に が一実践には協力問題に対する日 独は手段である」と絵隅すること の獲得は義務である。そしてプロ がプロの大目的であり、政治権力 者よろしく、「労働の経済的解放 まで引っはり出して来て文献主義 しており、「第一インターの規約 君は、我々が「攻緊烈階級闘争論 痔に入っていきたい。つまり新谷 のでないことを相方で確認して内 このような対応が何も生み出すも いうものだといいたくなるのだが のもあれば、誤ったものもあると れると、我々も喧感には正しいも

| リアートの関係は、その資本制的 してのブルジョアジーとプロレタ 本一館労働の関係の人格的表現と 誤っている。第一に階級関係、す

しうるということを忘れ去り、第

輪にまでいたる。これらは赤旗派

ある。

微を持ちこまなくてはならないと

いう任務が否定されてしまうので

関係の領域」から、共産主義的意

|家と賭階級に対する労働者階級の|ないのは、新谷君がそれを、まさ

|党が労働者に「歴主と労働者の関

係の椊外」から、すなわち、「国 眼をうばわれてしまうのであり、

っている。

) を否定、消磨したといって批判

だがいまだ共産同系籍党派の中に いるといっていえないことはない 一革命職争の路線の中に継承されて いた。だからこの限りでは我々の 型階級闘争」としてひきつがれて 争を位置付けるものとして「攻撃 反戦闘争を課題とした中央権力闘 ト革命論に対する批判として国際 めぐる議論の中で、つまりゼネス

「だが、この認識は全く混乱し

いる。

えるがゆえに、労働者の経済的解

り、資本制的生産様式の結果から

離を、自然法則として理解する限 ら必然的に生ずる所有と労働の分

かにしたが、資本--賃労働関係か

には、だから次のように審かれて

新谷君が批判している赤穀四号

赤軍派のこのような主張を一貫し て、論理化したのである。我々は タリアートの逆制約テーゼ」とし ロレタリアートの被制約ープロレ 分のもとに、過渡期世界論と結び

何の財産ももっていない」(同)

一ばならないのである。 が)が手段として行使されなけれ

と労働の分離が資本制的取得法則

我々の資本主義批判は、「所有

労働者は、自分の労働力以外に ことを明らかにし、それを基礎

地主に独占されているのに対し、 | として 闘われ なければ ならない |

て批判してきたのである。

の原則を復権したのである。だが に階級関争に対するマルクス主義

「攻墜型階級闘争の継承」といっ 「政治過程論の革命的復権」とか

なわち資本主義生産様式に於る資

こまで自覚的であるか、」といっ

新谷君が我々への一定の批判を述 黙してそれに対して何等の反論を っても莪粉であると思われる。 くことは我々の当初の窓閣からい して我々の見解を明らかにしてお 従って彼からの我々への批判に対 的問題に批判の軸をしばっている に、赤軍派と戦々の間に於る中心 明敬に拠っており、であるがゆえ 命戦争の否定、清算という傾向と への乗り移りによる党的破廃や革 の中に預需に存在する人民戦争派 べている。彼の児際は現在赤軍派 く唯一「新左翼」九月二五日号に 加えなかったのであるが、ようや た。だが赤斑派の諸君は完全に沈 るマルクス主義の原則を復権する るのた。我々は赤軍派と共有する 攻撃型階級闘争論」を批判してい たのであり、そこから赤軍派の「 整型階級開争」を根底的に克服し | ことによって第二次共産同の「攻 となのか。我々は階級闘争に対す とも赤軍派形成以後の「鯩」のこ 型階級闘争論」が第二次共発闸の |ているのか。また君のいう「攻撃 れの強調の政治的意味を問題にし 木(国際)共産主義運動に於るそ それとも受け入れた上で現在の日 一義の原則を受入れていないのか、 「攻弾型階級関争」なのか、それ

派や赤斑派の諸雪のように「攻撃 るということになりますが、烽火 れわれの立脚点まで洗い面してみ 新谷君は、「総路線の総括はわ っている。つまり「政治過程論」 | 証法」などとして哲学的に美化し | である。次に、資本制的生産様式 | なしには不可能であり、この義務 | 義を必然化するのである。 |関西共産間の「政治過程論」に持 ┃ て、攻撃型階級闘争を「攻防の弁 争」は、その歴史的起源の根拠を いないし消算しようがないのだ。 「攻撃型階級闘争論」など持って 第二次共産同の「攻撃型階級国

たのか。

した階級闘争に対するマルクス主 化論は克服されねばならないこと 一をの際第二次ブンドの労働力商品 ニン主然の原則にもとずいて、具 を問題にしているのであって「過 変質を総括した新たな世界党建設 | 争をめぐる関際的党派闘争及び第 という主張を総括して、世界唯一 | 体的に行うことが重要であること 義運動の総括を、マルクス・レー | 三インターのスターリン主義への 一のプロレタリア独裁、世界革命戦 を共産主義14号、15号以降主張し 立しないこと、むしろ国際共産主 **渡期世界論」は「論」としては成** ているのである。我々はこのようしこう述べている。 ての、具体的政治情勢(特に一九 解明される階級関係と政治的関係 資本制的生産様式の分析を通して 「関係にすりかえている。」 すなわち具体的政治情勢を、階級 おることを批判し、 し、後者によって前者をすり変え または階級闘争の歴史的産物とし 一七年ロシア革命以降の)を混同 つまり「攻撃型階級闘争論」は

| 祭り上げてしまったのではなかっ | 的担い手たる資本家と労働者との 一撃型階級闘争論を歴史哲学にまで てきたのであり、赤軍派は逆に、 「赤軍」NC2~NO4以降、攻 赤軍派は「赤軍」NO4に於い るのは、まず資本一質労働関係で ての資本主義批判から明らかにな

資本主義批判が労働力商品化論で な赤軍派の革命輪を吸付けている 「資本制的生産様式の解明とし

り、非和解的に対立していること - こ而者の経済的利害が正反対であしてあり、この要求の実現は労働者 |あり、それは資本||質労働の人格||の社会的災禍の根底にある経済的 関係が、労働者の資本家への隷属 が、労働者階級の共産主義的要求

| 竹産物としてのブルジョアジーと | 実の階級闘争に対する態度は急進 争を権力闘争へ」「武装闘争と大 得ないのである。いわく、「経済 ない赤軍派、共産同系諸党派の現 ち主張する傾向。 闘争、革命戦争を暴力革命一般か 衆闘争の結合」等々。そして武装 闘争を政治闘争へ」「個別政治闘 民主々義の枠内にとどまらざるを一 そしてこの原則の見地に立ち得 | 廃止、自からの経済的解放のため | 和見主義的傾向を生み出している きるのである。

「労働用具すなわち生活源泉の

第一インターナショメル規約は

独占者への働く人の経済的隷従が の根底にあること」 的悲慘、精神的退化、政治的從属 あらゆる形の糠属、あらゆる社会

隷属を打破しようとする要求こそ すなわち、労働者階級のすべて

階級が、政治権力を獲得すること

きるし、革命戦争を闘うことがで て、階級として行動することがで 一との大目的をとらえることによっ に闘わなければならないのであり

に対する民主々総的見地=個人主

| て初めて革命党へ自からを組織し | タリア独戯権力が遂行すべき、共

| 隣争―武装闘争へ転化してくるだ | 闘争をそのまま組み立て、ただ武 ろうという見込み以上のものでは 装闘争をやれば、大衆闘争も暴力 新谷君の見解は、現在ある階級

| 義者の態度であり、必然的に組織 | それへの武装闘争のつき木という | 義務であることを忘れ、経済闘争 タリアートの経済的解放のための | 論」は、政治権力の獲得がプロレ | ない。まさしく「攻撃型階級闘争 これは明確な国家に対する民主々 らざるを得ないのである。そして 急進民主々義運動の枠内にとどま と、民主々義闘争の急進的展開と

ので

派の人民民主々戦権力論として) 壁主義革命の任務をあいまいにす のである。つまり「反権力」とし 赤軍派の二重権力論、日共革命左 入らざるをえないのだ(例えば、 問題」における日和見主義に落ち ることによって、まさに、「権力 階級闘争の現段階で我々が絶対的 原則を原則一般としてではなく

の指針」として理解するならば、 に確認しなければならない「行動

戦争へのヴェクトルをもち、社共 国際共同軍事行動として世界革命 トナム解放勢力の闘いと通底する れに基礎づけられた「南・北ヴェ 階級闘争論」そのものであり、そ なければならない。 まさじく、 赤 ばならない立脚点とは、「攻撃型 軍派の諸君が洗い直してみなけれ 「攻撃型階級闘争論」は消算され

翼」新谷輪文)といった頭の中で と結合を追求すること」(「新左 暴力闘争―武装闘争への引き上げ 闘)とそれによる大衆実力闘争の 最も尖鋭な米軍基地への攻撃(武 闘機関を散け、革命的左翼による

うな理由からである。

地位は、生産手段が資本家階級と一の闘争(それは今日では革命戦争 | 争をプロレタリアートによるブル |として貫徹していること||を明ち||く、現在ある階級闘争の先頭で闘 う諸個人の集合としてしか党を考 | の覚殱般を通してプロレタリアー | ョア国家権力の打倒の過程として ジョアジーの逆制約のまたブルジ えざるを得ないからである。だか トを支配階級へ組織するのではな 把握するのであり、中央築権主義 「攻撃型階級闘争論」は階級闘

生する諸問題に対する闘争のみに|を扱う戦士の共産主義化」へ結実 することも必然である。 は必然であり、連合赤軍の「鉄砲 ら彼等の組織において「軍→党」 **新谷君が第一インターの規約の** 撃型階級闘争論」を。

と、つまりマルクス・レーニン主 国際非合法党建設の立場に立つと 義の見地に立つととによってのみ 中央集権主義の思想で武装された 国際諸潮流との党派闘争を通して 作業は、原則の見地に立つこと、 と見込みであり、党に対する個人 成功するだろう。清算せよ。「攻 の幻想にしかすぎない積み木細工 主義的態度である。そしてかかろ

## (五面よりつづく)

圧殺するために使われるだけである。 級に政治的に利用され、プロレタリアートの階級闘争を 治」は決して実権をもたらさず、せいぜいブルショア階 権は、北条氏の手にあった。日共は、ブルショアシーを ることなく、その承認のもとに将軍を擁立し、実際の実 なるのみである。鎌倉幕府の執権政治は、朝廷と対決す 異なった、資本主義の土台のもとでは、現在の「執権政 打倒することなく、それを擁立して、現代の「執権政治 ただ、労働省階級を、次の決定的な敗北へと導くことに 一たる民主連合執権を願望している。たが封建主義とは

#### △追 記

ておこう。 な民主々義」について述べている箇所に関する補捉をし 非レーニン主義について」の第四章 (b)で、「根本的 なお、赤報五号「革命戦争の底をおろした八木君の似

々綫の要求と、その拡大の延長上にプロレタリアートの ンの「根本的な民主々義」とはその内容が全く異ってい まず第一に、八木君の「根本的な民主々義」とレーニ 八木君が序章八号でいうのは、結局はブルジョア民主

శ్

すぎない」(五号)とわれわれが指摘したのは、 いったところを"根本的民主々義"と奪き換えているに 々幾の拡大に他ならないのである。 本的な民主々義的要求」とは、実際にはブルジョア民主 独我を夢想しており、そのことから当然、彼のいう「根 第二に、「八木君はカウツキーが "純粋民主々義" と 次のよ

れ行動の自由を一定確保しつつ共 地域住民と革命的左翼とがそれぞ (民青)、総評のそれぞれ左派と

ジョア的態度に陥ることを、八木君もまた示していたの キーの「純粋民主々義」と同様の民主々義に対するブル 経済的基礎と切り離して把握するならば、必らずカウツ 々義か)との関係で述べるのではなく、民主々義をその 々義をその経済的基礎(どの階級の支配のもとでの民主 経済的解放のための劉争の手段なのである。だが、 くびき、賃金奴隷制を維持した上での」すなわちブルジ 民主々義とはプロレタリア独裁下における労働者階級の ける「形式的平等」にすぎず、また、他方プロレタリア ョア階級に対するプロレタリア階級の経済的隷属下にお ブルジョア民主主義とは「ブルジョア的抑圧、資本の 民主

# ボーナス・カンパの要請

である。

寄せられた物心両面の多大な支持と援助は、我々への大きなはげましとな 昨秋、我々が共産同(RG)を結成して以降、同志及び支持者諸氏から

せねばならない。 を守り、中央集権主義を守り、 削進への実践は増々その政治的意義を深めている。ブロレタリア独裁の旗 現在の階級闘争の進展の中で、我が同盟の国際非合法党建設と革命戦争 我々は更に大きく確実に組織活動を前進さ

カンパを要請したい。あらゆる方法で党中央に送り届けられんことを。 同志及び支持者諸君。我々の組織活動の財政的保障のため、ボーナス・

共産主義者同盟(RG)中央財政部